www.hakodate-otani.ac.jp

HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2023　こども学科　１年

こども学科

＜教育目的＞

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対して
あたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

＜教育目標＞

１．［多様な専門性を身につけた保育者の養成］
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
２．［人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成］
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、
社会人としての人間形成に努める。
３．［心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成］
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

＜学習成果＞

１．保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
２．子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
３．豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
４．保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

＜卒業認定・学位授与の方針＞

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士（保育学）の学位を授与します。
１．保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
２．子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
３．地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

［講義概要］

授　業

（１） 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
（２） 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
（３） 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
（４） 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
（５） 各講義の開講は次のとおりとする。

２０２３年　こども学科カリキュラム（2023 年度入学者）

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（1年）		2024年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事(任)
									前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	E105	4	3		2	講義	2				2	△		○	◎
	現代地域学論	E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	E201	2	1・2		2	演習	2		2			△		◎	
	英会話	E202	2	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	健康科学論	E301	1・2・3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	E302	1・2・3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
	総合教養演習	E401	4	3		1	演習		通年		通年		△			
専門教育科目	幼児音楽	S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習Ⅰ	S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習Ⅱ	S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	S306	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	S307	1・3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	S308	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	S309	1・2・3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化Ⅰ	S102	1	1・2		2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	S103	4	3	●	2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202	1・4	1		2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	S204	1	1		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	S205	1・4	3		2	講義	2			2		○		◎	
	保育原理	S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護Ⅰ	S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護Ⅱ	S107	4	1		1	演習	2			2		○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	S401	1・4	2		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	S403	1・2	1		1	演習	1			1		○			
	保育実習Ⅰ	S404	1・2・3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	S405	1・2・3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	S406	2・4	3		2	実習	6			6		○			
	子どもの保健	S206	2・4	1		2	講義	2				2	◎		◎	
	子どもの食と栄養	S207	1	1		2	演習	2	2				○		◎	
	子どもの健康と安全	S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎	
	乳児保育Ⅰ	S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎	
	乳児保育Ⅱ	S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎	

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（1年）		2024年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	S108	2・4	1		2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	S110	1・4	1		2	講義	2	2				◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	S111	1・2・3・4	1・3		2	講義	2				2	○	◎	◎	
	幼児理解の理論	S112	1・2	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	S211	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	S113	4	1	●	1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育財政学	S114	1・4	1		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	S115	1	2		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	S310	1・4	1		2	演習	2				2	◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	S311	1・2	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	S312	1・3	2	●	2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	S313	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	S314	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	S315	1・3・4	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	S316	1・2・3	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	S317	1・3	2	●	2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	S116	1・4	1		2	講義	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	S408	1・2・3・4	3		3	実習	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	S410	1・2・3・4	1・2・3		2	演習	4				4	○	◎	◎	
	ピアノ表現法Ⅰ	S318	3	2		1	演習	2	1	1			○			
	ピアノ表現法Ⅱ	S319	3	2		1	演習	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から12単位以上、○印の中から23単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について

―教育実習（幼稚園本実習）―

教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

―保育実習（保育園・施設）―

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10日間80時間以上とする。

こども学科コース選択科目

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	コース別	2023年（1年）		2024年（2年）		備考
										前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	S501	1・2・3・4	2		1	演習	2	幼教			2		
	こどもの音楽と遊び	S502	1・2・3	2		1	演習	2	幼教			2		
	こどもの健康と遊び	S503	1・2・3・4	2		1	演習	2	幼教				2	
保育福祉	地域福祉論	S604	4	3		2	講義	2	保福			2		社会福祉主事(任)
	ボランティア活動論	S602	4	3		2	講義	2	保福				2	
	福祉住環境コーディネイターⅠ	S603	4	3		1	演習	2	保福			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701	1・2	1		1	演習	2	保心				2	
	セラピー概論	S702	1・2	1		2	講義	2	保心			2		
	保育心理演習	S703	1・2	1		1	演習	2	保心			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（1年）		2024年（2年）		備考
									前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	F101	2・3	2		2	演習	2				集中	
	国際保育理解	F102	4	2・3		1	演習	2		集中		集中	海外研修
	ウインタースポーツ	F103	1	3		1	演習	2				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数　：７単位

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
人 間 学 Ⅰ	教養教育科　目	講　義	2	E101

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
福　島　　重	1	前　期	必　修		◎	

授業概要	人間学とは、「自分と向き合う」学問である。人間の根源的苦しみや、現代社会が抱える問題を深く考えることは、そこに生活する「自分自身」をみていくことに繋がっていく。この授業では、その「自分とは何か」を探るための道標として仏教を用い、それをもとに洞察力・考察力を養う。
到達目標	自分自身を見つめることができる洞察力・考察力を身に着けることを目標とする。
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと（15 分)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	人間にとって恋愛とは？
2	「人間学」とは何なのか？	10	自我と利他
3	仏教では「死」をどう受け止めるのか？	11	人間と災害
4	仏教では「病」をどう受け止めるのか？	12	異文化とは何か？
5	仏教では「老」をどう受け止めるのか？	13	仏教と社会　①差別について
6	仏教では「生」をどう捉えるのか？	14	仏教と社会　②身近な差別
7	人間は弱い生き物なのか？	15	人間の真の幸福とは？
8	仏教における「欲」と社会における「欲」		

教科書・参考文献	特になし
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績は、小テスト（40%)、期末テスト（60%）の絶対評価を基本とする。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
人 間 学 Ⅱ	教養教育科　目	講　義	2	E102

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
福　島　　重	1	後　期	選　択		○	

授業概要	私たちは、これまで生きてきたなかで、気付かぬうちに様々な「文化」に触れてきた。なかには潜在的に持ち合わせているにも関わらず、私たち自身が気づいていない「文化」もある。 本講座は、そのような「潜在的な文化認識」に焦点を当て、その淵源をたずね、考察していくことを通じて、自分が知らない「様々な文化によって構築されている自分自身」を知ることを目指す。
到達目標	本講座では、様々な文化に触れることを通して、「文化への理解」を深めることを大きな目標とする。
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと（20 分)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	近代文学のなかの日本文化①
2	文化とはなにか？	10	絵本のなかの日本文化②
3	宗教と潜在的意識	11	近代文学のなかの日本文化②
4	遊びのなかの文化①	12	生活のなかの日本文化
5	遊びのなかの文化②	13	外国文化と日本文化①
6	遊びのなかの文化③	14	外国文化と日本文化②
7	遊びのなかの文化	15	いかにして文化を伝えるか？
8	絵本のなかの日本文化①		

教科書・参考文献	特になし
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	小テスト（40%)、期末テスト（60%）の絶対評価。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。(再試験はありません)
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
こころの科学	教養教育科　目	講　義	2	E103

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
阿　部　千　春	1	前　期	選　択		◎	

授業概要	本講義では，人の心のしくみを科学的に理解しようとする態度を養い，自己理解や子どもの理解と対応，保育・幼児教育にも関連づけて考えていくことを目的とします。
到達目標	人の心のしくみや子どもの理解と対応について基本的な知識を習得することをめざします。
授業の方法	講義資料を用い，講義形式で行います。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業後は，講義資料を読んで復習し，学習した内容の要点をノートにまとめます。(40 分程度)
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	集団の心理学とリーダーシップ理論
2	科学としての心理学	10	感覚と知覚のメカニズム
3	心理療法とカウンセリング	11	感情の心理学
4	生涯発達心理学①　乳幼児期～児童期	12	動機づけの心理学
5	生涯発達心理学②　思春期～老年期	13	学習理論①
6	パーソナリティ心理学	14	学習理論②
7	対人関係の心理学①	15	講義総括
8	対人関係の心理学②		

教科書・参考文献	教科書：なし・資料配付 参考文献：藤本忠明他編著「ワークショップ大学生活の心理学」ナカニシヤ出版
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。また，具体的な学習方法について提示します。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験（80%），授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し，単位認定を行います。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
日本国憲法	教養教育科　目	講　義	2	E104

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
伊藤　泰	1	前　期	選　択	◎	○	

授業概要	日本国憲法の学習領域中，主として人権分野について学ぶ。人権の歴史的展開をふまえて，個別の人権規定を中心に基本的な学説や判例を検討する。
到達目標	本講義では，日本国憲法の内容について知り，特に人権についての知識を深めることを目的として、具体的な事例を交えつつ授業を行う。
授業の方法	講義形式で行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習については，参考書等で次回の授業内容に関することがらを調べておくことが望ましい(30分)。復習については，受けた授業でとったノートの内容を振り返っておくことが望ましい(30分)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	表現の自由
2	立憲主義と法の支配	10	経済的自由権
3	国民主権の意味	11	社会権
4	基本的人権という観念の特質	12	三権分立
5	基本的人権の限界はどこにあるか?	13	議院内閣制
6	幸福追求権	14	司法審査制
7	法の下の平等	15	戦争と平和主義の理念
8	内心の自由		

教科書・参考文献	なし
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	理解度を確認したうえで，定期的に解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学卒業認定・位授与の方針「１」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	期末定期試験のみの結果に基づき成績評価を行う。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
情報処理演習	教養教育科　目	演　習	2	E107

	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
渋　田　昌　士	1	前　期	選　択	◎	○	

授業概要	Microsoft Word,Excel,PowerPoint を使った演習です。その他パソコン(Windows)の基本操作,メールや情報リテラシーなどを学習します。
到達目標	幼児教育者として必要な情報処理技能の習得。Word を使って見やすい文書さくせいができること。Excel を使ってデータ整理ができること。PowerPoint を使って発表ができること。メールの送受信ができること。
授業の方法	毎回課題を出しそれに則した説明をしていきます。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前練習(45 分) 事後練習(90 分)
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	Excel の基本操作①
2	Windows の基本操作	10	Excel の基本操作②
3	電子メールの設定と送受信	11	PowerPoint の基本操作①
4	Word の基本操作①	12	PowerPoint の基本操作②
5	Word の基本操作②	13	課題作成　③
6	課題作成　①	14	課題発表　①
7	Word の応用操作	15	課題発表　②
8	課題作成　②		

教科書・参考文献	
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	各回授業時に前回の振り返りを行う。課題に関しては合格ラインまで繰り返しの指導を取る。課題発表ではその場での指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	通常点(2,3,4,5,7,9,10,11,12 回×5%)　45% 課題①②（20%+20%）　40% 課題③および課題発表　15%
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
英　　語	教養教育科　目	演　習	2	E201

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
則　末　久　代	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	社会のグローバル化に伴い多様な文化的背景を持つ子どもたちや保護者と関わる場面が増えている。また、小学校での英語教育必修化により早期英語教育への関心が高まり、保育・教育の現場で英語を話す必要性が求められている。本単元では異文化知識を深めながら保育に必要な英語表現を学習する
到達目標	1．保育・教育現場で活用される基本的な英語コミュニケーション能力を身に付けることができる。 2．英語表現を用いたコミュニケーションを楽しむことができる。 3．英語コミュニケーションを通じて異文化理解が広がり、継続して学ぶ意欲が持てる。
授業の方法	教科書と CD を使用し保育・教育の現場に必要な英語の語句、発音を学習していく。子どもたちの好きな英語の歌やお話し、日常生活に必要な英語表現をプリントで学習し異文化理解を深めていく。 最終日は保育の現場を想定し、学習してきた歌や物語を英語でグループ発表する。また、発表までのグループワークの過程も授業であるためグループ・ダイナミックスを最大限に発揮すること。
予習・復習等及び必要時間(分)	・予習：上記授業計画に基づき、教科書の次回学習ページおよび課題に対し準備する（1時間程度） ・復習：授業終了時に出された指示に基づき復習する（1時間程度）
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション　／英語による自己紹介	9	Unit8:食事に関する表現　／　英語でレシピを言おう！
2	Unit1：園舎に関する表現 Yes-No Questions　／　Rayming Word～韻を踏む	10	Unit9:排泄に関する表現　／　外国のお話しを読む②
3	Unit2：子どもの家族紹介 W/H Questions　／　日本のお話しを読む①	11	Unit10：喧嘩をしている子どもへの言葉がけ 身体の部位に関する表現　／　英語の歌を歌おう♪②
4	Unit3:時間と数字の表現　／日本のお話しを読む②	12	Unit11:けが・病気に関する表現 救急処置に関する単語　／　グループワーク準備①
5	Unit4:道順を示す表現　／　道案内をやってみよう！	13	Unit11:けが・病気に関する表現　／　グループワーク準備②
6	Unit5:園庭の道具や子どもの遊びの表現 What do you want to do?　／　外国のお話しを読む①	14	講義の振り返り
7	Unit6:登園・降園時の会話　／　英語の歌を歌おう♪①	15	グループ発表
8	Unit7:保育士の仕事　／　英語で折り紙を折ろう！		

教科書・参考文献	保育の英会話　Childcare English　赤松直子・久富陽子著　萌文書林 英和辞典・和英辞典
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	試験終了後、重要ポイントのフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	3分の2以上の出席を前提として、筆記試験を行う。 筆記試験（80%）、授業に対する取り組みの姿勢・課題の達成度（20%）　合計の60%で合格とする
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
英　会　話	教養教育科　目	演　習	2	E202

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
村田　あきの	1	前　期	選　択	◎	○	

授業概要	この授業では、保育現場で使用できる基本的な英語についてフレーズを中心に学ぶ。コミュニケーションに実践的に使用できる汎用性の高い口頭表現について、状況を想定しながら繰り返し練習する。
到達目標	１．英語による簡単な表現を使用して、適切な意思表示ができる。 ２．保育の現場で使用される短く汎用性のある口頭表現がとっさに使用できる。 ３．多様な文化背景を持った子どもや保護者とのコミュニケーションについて理解を深める。
授業の方法	音声を聞いてシャドーイングをする。学習する表現に合わせてペアワークやロールプレイをする。 受講者の理解度や進捗状況に応じて授業内容が変更される場合がある。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業で配布された資料やノートを復習し、確実に暗記するまで繰り返し口に出して練習すること。（３０分から１時間）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	「なぜ？どう？」相手に尋ねる表現（1）
2	「please」ではない「どうぞ」	10	「なぜ？どう？」相手に尋ねる表現（2）
3	「まだ」「大丈夫」	11	小テスト／「教えてください」
4	「お願いします」依頼の表現（1）	12	便利なひと言
5	「お願いします」依頼の表現（2）	13	「～したら？～しなくちゃ」
6	小テスト／「ありがとう」「すみません」	14	小テスト／あいづち・レスポンス
7	「やめて！」禁止の表現（1）	15	フィードバック
8	「やめて！」禁止の表現（2）		

教科書・参考文献	
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	小テストにおいて確認し、解答と解説により理解を深める。 グループディスカッションなどで、各個人に応じたアドバイスを行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の学習に反映させる。
学習成果との関連	テストはロールカードによるロールプレイまたは筆記テストを実施する。テスト終了後、全体にフィードバックを行う。ミスの多い項目については、再度ペアワーク等を実施し個別にフィードバックを行い、繰り返し練習する。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	当該学科の学習成果「２」に該当する科目である。
実務経験と担当科目内容との関連	テスト９０％（各３０％） ペアワークやロールプレイの発表　１０％

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング		
健康科学論	教養教育科　目	講　義	1	E301		
	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
池　田　　隼	1	前　期	選　択	幼	保	社
				◎	◎	

授業概要	本講義では，健康の維持増進を図るために，健康の概念や健康に影響を与える生活習慣，環境要因などについて学び，自身の生活習慣を見直し，生涯にわたり健康に過ごすための知識を学ぶ。
到達目標	健康の維持増進を図るために，健康の概念や健康に影響を与える生活習慣について理解を深め，生活習慣を見直し，生涯にわたり健康に過ごすための力を身に付けるための知識を付け，さらにその知識を活用するための実践的な方法を理解することを目的とする。
授業の方法	講義形式で講義を行い，単元ごとに資料を配布し学びを深める。また，毎時間グループディスカッション及び発表を実施する他，レポートを提出し，理解度を確認しながら進めていく。その他，状況に応じて学内にあるPCを使用する場合もある。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前に与えられた課題について各回1時間程度の予習が必要である。また，授業内テストについては，それまでの講義内容の復習が1時間以上必要となる。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	メンタルヘルスと健康
2	健康の概念	10	する・見る・支える
3	生活習慣病	11	コーチングの理論と実践①
4	運動と健康	12	コーチングの理論と実践②
5	身体のしくみ	13	チームビルディング
6	トレーニングの理論と実践①	14	女性とスポーツ
7	トレーニングの理論と実践②	15	運動プログラムの作成（まとめ）
8	栄養と健康		

教科書・参考文献	資料を配布
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	単元毎にレポートを実施し，授業内で解答と解説を行い，理解度を確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内テスト（40%）（授業内テスト2回（20点×2）の受験を必須とする），提出されたレポート等の課題評価（20%），定期試験（40%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
健康とスポーツ	教養教育科　目	実　習	1	E302

	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
池　田　　隼	1	前　期	選　択	◎	◎	

授業概要	運動を通しスポーツへの理解を深め，心身ともに健康で活発的な身体づくりを行い，生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高める。
到達目標	運動への意欲を高め，生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高めることを目的として演習を行う。
授業の方法	実技形式で行う。また，バレーボールやフットサル，バスケットボールといった球技スポーツの特性を踏まえグループを形成し演習を進める。他にも，バドミントンやニュースポーツも実施する。
予習・復習等及び必要時間(分)	各種目におけるルール理解のための各回1時間程度の予習が必要である。また，レポートのための復習が1時間程度必要になる。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	バスケットボール
2	レクリエーション・ニュースポーツ	10	バスケットボール（レポート提出・実技テスト）
3	レクリエーション・ニュースポーツ	11	バドミントン
4	バレーボール	12	バドミントン（レポート提出・実技テスト）
5	バレーボール	13	スポーツ・運動遊び
6	バレーボール（レポート提出・実技テスト）	14	スポーツ・運動遊び
7	フットサル	15	まとめ（レポート提出）
8	フットサル（レポート提出・実技テスト）		

教科書・参考文献	資料を配布
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	5回のレポート提出を実施し，授業内で解答と解説を行い，理解度を確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内実技テスト（60%），提出されたレポート等の課題評価（40%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
総合教養演習	教養教育科目	演習	1	E401

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
こども学科担当教員	1.2 年次	通年	選択			

授業概要	社会人としての基礎力を身につけるためには、総合的な一般教養に磨きをかけることが求められます。建学の精神の下、保育者としてのライフスタイルを形成するための基礎知識を学びながら、実践的に活用できる力を養います。
到達目標	多様な職業観を養い個々の資質の向上を目指すとともに、保育者としてあるべき教養を深めることで基本的なふるまいができことを目的とします。
授業の方法	オムニバス形式で実施。卒業までの 2 年間で学ぶこととし、講義の実施日程等については順不同で実施することとし、その都度連絡をする。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習として、日頃から新聞を読み現代社会の状況に関心をもつ（30 分)。 講義配布資料等の見直しで復習する（15 分)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	キャリア形成Ⅰ（求人票）
2	別院参拝（東本願寺函館別院）	10	キャリア形成Ⅱ（エントリー）
3	基礎教養Ⅰ（学科特別講座）	11	キャリア形成Ⅲ（業界研究）
4	基礎教養Ⅱ（建学の精神）	12	キャリア形成Ⅳ（業界研究）
5	基礎教養Ⅲ（お釈迦様の教え）	13	キャリア形成Ⅴ（履歴書）
6	基礎教養Ⅳ（親鸞の教え）	14	キャリア形成Ⅳ（内定の意味と規定）
7	危機管理研修Ⅰ（賢い消費者）	15	総括
8	危機管理研修Ⅱ（薬物乱用防止）		

教科書・参考文献	ありません。授業内で適宜配布、紹介。
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内で実施する小テストや課題は随時フィードバック。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「３」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内の提出課題を 100%評価の原則とします。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
幼 児 音 楽	専門教育科　目	演　習	2	S301

	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
土　谷　育　代	1	前　期	必　修	◎	◎	

授業概要	子どもの音楽表現活動を支えるために、保育者に必要な音楽の基礎知識とピアノの基礎技能を学び、豊かな表現力を身につける。
到達目標	・保育者として必要とされる基礎的なピアノ演奏ができる。 ・基礎的な音楽理論を説明でき、楽譜を読むことができる。 ・子どもの歌を豊かな表現で、弾くことができる。
授業の方法	教科書と配布プリントを用い、音楽理論を講義形式、ピアノ演奏を ML 教室にて演習形式で行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日 30 分～1 時間以上のピアノ練習が必要。　音楽理論の復習、課題に 1 時間程度が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション　保育者に必要な音楽表現	9	ピアノ演奏⑦ト長調の子どもの歌
2	譜表と音名　　ピアノ演奏①片手練習	10	和音とコードネーム　ピアノ演奏⑧ト長調の子どもの歌
3	音符と休符　　ピアノ演奏②片手練習	11	ピアノ演奏⑨ト長調の子どもの歌
4	リズムと拍子　ピアノ演奏③両手練習	12	音楽理論小テスト
5	記号、用語　　ピアノ演奏④ハ長調の曲	13	ピアノ演奏⑩ヘ長調の子どもの歌
6	音程　　ピアノ演奏⑤ハ長調の子どもの歌	14	ピアノ演奏発表の曲
7	音階と調　　ピアノ演奏⑥ハ長調の子どもの歌	15	ピアノ演奏発表　まとめ
8	ピアノ演奏小テスト		

教科書・参考文献	教科書 : 楠井淳子著『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現』ふくろう出版、神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、参考文献 : 小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	理論に関しては、毎時間のプリント課題を含め正誤の確認をし、理解を深める。 ピアノ演奏については、ML 学習時に個々に助言を行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の自己練習に反映させる。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ピアノ演奏発表（60%）　課題、音楽理論小テスト、ピアノ演奏小テスト（40%）
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育音楽	専門教育科目	演　習	1	S302

	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
土　谷　育　代	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	「幼児音楽」での音楽理論とピアノ演奏を踏まえて、保育者に必要な音楽の知識と技能を学ぶ。子どもの歌のピアノによる弾き歌い、ミュージックベル、手あそびを通して、音楽の楽しさを感じ音楽表現することを身につける。
到達目標	・子どもの歌のピアノ演奏と弾き歌いを豊かな表現で演奏することができる。・ミュージックベルの奏法を説明でき、音を聴き合い、合奏できる。・子どもの歌のコードネームによる伴奏付けと移調奏ができる。・手あそびをレパートリーとし、実践できる。
授業の方法	教科書と配布プリントとを用い、演習形式を中心に行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日 30 分～1 時間以上のピアノ演奏と弾き歌いの練習が必要。課題完成、復習に 1 時間程度が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション　ピアノの弾き歌いについて	9	手あそび発表
2	ピアノ弾き歌い①	10	ピアノ弾き歌い⑤　移調奏
3	ピアノ弾き歌い②	11	ミュージックベル①奏法
4	ピアノ弾き歌い③	12	ミュージックベル②練習と発表
5	ピアノ弾き歌い④　コードネーム①	13	ピアノ弾き歌い⑥
6	ピアノ弾き歌い小テスト	14	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いの発表の曲
7	コードネーム②伴奏の付け方　手あそび①	15	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いの発表　まとめ
8	コードネーム③伴奏の付け方　手あそび②		

教科書・参考文献	教科書：楠井淳子著『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現』ふくろう出版、神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、参考文献：小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。 課題、発表では解説、助言を行う。提出課題には採点と解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ピアノ演奏とピアノ弾き歌い発表（60%）　課題、発表、ピアノ弾き歌い小テスト（40%）
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
音 楽 実 践	専門教育科　目	演　習	1	S305

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
土　谷　育　代	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	子どもの歌唱活動を支援するために必要な基礎的な知識と歌唱を学習する。子どもの歌、合唱などを楽しみ歌うことを通して、歌唱力と表現力を身につける。
到達目標	・正確な音程とリズムで歌うことができる。 ・歌詞の内容、曲について解釈し的確な表現をすることができる。 ・お互いの声を聴き合い、楽しく合唱することができる。
授業の方法	教科書と配布プリントとを用い、演習形式を中心に行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	1 時間程度の復習が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション　保育者に必要な歌唱	9	冬の歌　　あそびうた②
2	発声法	10	子どもの歌①　あそびうた③
3	発声練習①　生活の歌①	11	子どもの歌②　合唱①
4	発声練習②　生活の歌②　子どもの発達と歌唱	12	子どもの歌③　合唱②
5	春の歌　　日本の子どもの歌の歴史	13	グループで合唱発表
6	夏の歌	14	子どもの歌④
7	歌唱の小テスト	15	歌唱の発表　まとめ
8	秋の歌　　あそびうた①		

教科書・参考文献	教科書：神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社　参考文献：小林満編『新・声楽指導教本』教育芸術社
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業時に個々に助言を行う。課題、小テスト、発表の後に助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	歌唱の発表（70%）　課題、合唱発表、歌唱の小テスト（30%）
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
幼 児 美 術	専門教育科　目	演　習	2	S306

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
太 田　　望	1	前　期	必　修	◎	◎	

授業概要	・造形表現とは何かを知る。 ・造形表現活動に取り組むことを通して、材料や用具の取り扱いや基礎的な技能、造形的な見方、考え方について学修する。 ・他者との協働的な活動を通して表現の多様性やその尊重の重要性について学修する。
到達目標	・幼児の発達段階や個性的表現などを踏まえた幼児の造形表現の教育的意義を理解する。 ・材料や用具の取扱いや、基礎的な技能について理解し、造形的な見方や考え方を働かせることができるようになる。 ・他者との協働的な表現や、相互鑑賞を通して、表現の多様性を理解し、尊重し合うことができる。
授業の方法	実際に造形表現活動に取り組む実技演習が中心となるが、ただ作品の制作や鑑賞に終始するのではなく、教育的な視点からの振り返りや協働的な学びを通して目標の達成をめざす。
予習・復習等及び必要時間(分)	日頃から、身近な素材や作品（表現）に関心を持ち、造形表現と結びつくようにしておく(30 分程度)。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	表現とは何か？行為を楽しむ[フロッタージュ]、(オリエンテーションを含む)	9	素材を楽しむ[リサイクル素材]
2	題材との出会い[コラージュ]	10	素材を楽しむ[様々な素材の粘土]
3	行為を楽しむ[スクラッチ]	11	材料との出会い[筆・はけ・絵の具]
4	行為を楽しむ[スタンプ・フィンガーペインティング]	12	造形活動を活かした壁面構成作り
5	行為を楽しむ[デカルコマニー・流し絵・吹き絵]	13	壁面構成の鑑賞
6	行為を楽しむ[版画遊び]	14	行為を楽しむ[光を遊ぶ]
7	行為を楽しむ[和紙染め]	15	「子どもの絵の世界」・まとめ
8	行為を楽しむ[切り紙]・ 材料との出会い[はさみ・のり]		

教科書・参考文献	『子どもの絵の世界』（日本文教出版）・『美育文化ポケット』（公益社団法人　美育文化協会）
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	疑問点等は次週の授業内で回答する。 オフィスアワーにて随時受け付ける。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	提出されたレポート(60%)、定期試験(40%)等、総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育造形	専門教育科目	演　習	1	S307

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
太田　望	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	・楽しさの軸から造形表現活動を捉える。 ・造形表現活動に取り組むことを通して、材料や用具の取り扱いや、技能、造形的な見方、考え方を保育の視点で考える。 ・これまで学修した造形表現活動の視点を踏まえ、乳幼児の発達段階や個性的表現を尊重する指導案を作成する。
到達目標	・乳幼児の発達段階や個性的表現などを踏まえた乳幼児の造形表現の教育的意義を理解する。 ・材料や用具の取扱いや、技能について理解し、造形的な見方や考え方を働かせることができるようになる。 ・これまで学修した造形表現活動の視点を踏まえ、乳幼児の発達段階や個性的表現を理解して、指導案を作成することができる。
授業の方法	実際に造形表現活動に取り組む実技演習が中心となるが、ただ作品の制作や鑑賞に終始するのではなく、教育的な視点からの振り返りや協働的な学びを通して目標の達成をめざす。
予習・復習等及び必要時間(分)	日頃から、身近な素材や作品（表現）に関心を持ち、造形表現と結びつくようにしておく(30 分程度)。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション・であいをたのしむ(材料とのであい①) ［お花紙］	9	みたてをたのしむ(創造)［コラージュ］
2	であいをたのしむ(材料とのであい②) ［小麦粉粘土］	10	そうぞうをたのしむ[いのちのつながりを感じる心・活動主題としての想像］
3	であいをたのしむ(材料とのであい③)［指絵の具］	11	つたえあうをたのしむ[絵の手紙］
4	であいをたのしむ(行為の楽しさ①)［洗濯バサミ］	12	指導案を書く①
5	であいをたのしむ(行為の楽しさ②)［砂遊び］	13	指導案を書く②
6	であいをたのしむ(場や環境とのであい)［自然物］	14	指導案を書く③
7	であいをたのしむ(保護者との共有)［ドキュメンテーション］	15	まとめ・造形表現活動を楽しさの軸から考えるということ
8	みたてをたのしむ(共有)［形からの見立て］		みたてをたのしむ(創造)［コラージュ］

教科書・参考文献	『子どもの絵の世界』（日本文教出版）・『美育文化ポケット』（公益社団法人　美育文化協会）・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	疑問点等は次週の授業内で回答する。 オフィスアワーにて随時受け付ける。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	提出されたレポート(60%)、定期試験(40%)等、総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
基 礎 国 語	専門教育科　目	講　義	2	S101

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
村田　あきの	1	前　期	選　択	◎	◎	

授業概要	この講義では、学びの基礎となる基本的な日本語表現について学習する。さらに、保育現場で必要とされる、正しく、適切な日本語やソーシャルスキルについて考え、練習し、使いこなせるようになることを目指す。
到達目標	適切な日本語運用能力と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を習得する。
授業の方法	講義により導入をした後、文章表現については配布するワークシートの課題に取り組む。ソーシャルスキルについては、ペアワーク、ロールプレイ、発表等を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	ワークシートのミスした部分や、講義資料の理解が難しかった箇所を確認し必要に応じて修正やノートの整理をする（３０分程度）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	話し方の基本とあいさつ	9	文章作成の留意点
2	自己紹介	10	文章の基本的な書き方
3	敬語の使い方	11	実習日誌の書き方
4	話すスキルと聴くスキル	12	メールの書き方
5	保育現場での話し方	13	連絡帳の書き方
6	子どもや保護者への言葉がけ	14	保育に関する文献を読んで自分の考えを書く
7	保育現場での電話・メモの取り方	15	ふり返り・フィードバック
8	正しい表記で書く		

教科書・参考文献	【参考文献】 田上貞一郎（2010）『保育者になるための国語表現』萌文書林
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	各回でワークシートを回収し、実施内容に従いコメントと添削を行う。 フィードバックは個別およびクラス全体に実施する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「２」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ワークシート８０％　　ペアワーク・発表２０％ ワークシートへの取り組みを基本として、講義内容に従い日本語表現が適切に修正され、向上しているかを評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
社 会 福 祉	専門教育科　目	講　義	2	S103

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
渡　谷　能　孝	1	前　期	選　択		◎	◎

授業概要	日本の社会福祉の歴史や法制度、実施体制について学習し、保育者に必要とされる情報や現状の課題などを考え、家庭を支援する保育者が、社会福祉的視点について理解していきます。
到達目標	社会福祉の意義と歴史、サービスの概要と重要性について学び、社会福祉に関する制度や知識についての理解を深め、保育者として資質向上を図り、子ども家庭支援者としての社会福祉的の視点について理解することをねらいとする。
授業の方法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じて、保育にかかわる福祉課題などをテーマに、グループディスカッションを通して考える。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習として、次回講義ページの教科書を読んでおく（20 分程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習（20 分程度)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	児童福祉Ⅰ（子どもと子育て家庭への支援）
2	保育と社会福祉	10	児童福祉Ⅱ（児童福祉施設）
3	社会福祉と保育の道すじ	11	障害のある人の福祉
4	社会福祉の意味と考え方	12	高齢者福祉と少子化
5	社会福祉の実施体制と財源	13	地域福祉
6	社会保障制度Ⅰ（年金保険）	14	子どもと家族の福祉課題（グループディスカッション）
7	社会保障制度Ⅱ（医療保険）	15	社会福祉の専門職と倫理
8	社会保障制度Ⅲ（生活保護）		

教科書・参考文献	教科書：九訂　保育者を目指す人の社会福祉（みらい）
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「３」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験（100%）を原則とし、グループディスカッション（積極性、論理的思考、他者への配慮）の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点から授業を展開していく。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育の心理学	専門教育科　目	講　義	2	S201

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
阿　部　千　春	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	乳幼児期における大人や仲間との相互関係，多様な経験，指導・援助のあり方，環境の構成の意義について理解を深めることを目的とします。
到達目標	子どもの発達に関わる心理学や子どもの学びの過程，各発達段階における心理的特性についての基礎的な知識を習得し，子どもへの理解を深めることをめざします。
授業の方法	講義資料を用い，講義形式で行いますまた，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30 分程度) 授業後は，教科書と講義資料を読んで復習し，学習した内容の要点をノートにまとめます。(30 分程度)
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	愛着の形成と親子関係②
2	子どもの発達の理解	10	社会性と友達関係の発達
3	発達理論と子ども観・保育観	11	乳幼児期の学びの過程と特性－遊びの発達－
4	身体的機能と運動機能の発達	12	自己概念の発達
5	認知の発達	13	道徳性の発達と向社会的行動
6	乳幼児期の学びに関わる理論－感情と動機づけの発達－	14	乳幼児期の学びを促す援助のあり方
7	言語とコミュニケーションの発達	15	講義総括
8	愛着の形成と親子関係①		

教科書・参考文献	教科書：櫻井茂男・大内晶子著「たのしく学べる乳幼児のこころと発達」福村出版 参考文献：川島一夫他編著「図で理解する発達心理学」福村出版
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「２」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験（70%），ファイル提出（20%），授業後に提出する感想カード（10%）によって総合的に評価し，単位認定を行います。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
子育て支援	専門教育科　目	演　習	1	S203

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
渡　谷　能　孝	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	子育て世帯の現状から見える課題を通じ、保護者とのかかわりを基本とした信頼関係の構形成基に、保護者支援に関する特性と具体的な展開方法を理解する。
到達目標	保育士の専門性である保護者に対する相談、助言の知識や技術を理解し、家庭環境に合わせた支援の在り方について考える。また、子育て家庭を取り巻く状況から、保護者に対する相談、助言の具体的に展開することができる。
授業の方法	テキスト、スライド、プリントを用いて講義、演習を実施し、子育て支援についての理解を深める。子育て支援の課題解決に向けたグループワークを実施する。
予習・復習等及び必要時間(分)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します（30 分程度)。 授業において配布した資料を再確認する（15 分程度）
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション・子育て支援とは	9	子育て支援の展開Ⅰ（状況把握）
2	子育て支援を取り巻く状況の変化	10	子育て支援の展開Ⅱ（計画）
3	保育士の行う子育て支援体制	11	子育て支援の展開Ⅲ（グループワーク）
4	子どもの保育を通じた保護者支援	12	地域子育て家庭への支援
5	子育て支援者としての保護者理解	13	障がいのある子どもを抱えた家庭への子育て支援
6	保護者との信頼関係	14	特別な配慮を要する子どもへの支援
7	子育て支援の基本Ⅰ	15	多様なニーズをかかえる家庭への子育て支援
8	子育て支援の基本Ⅱ		

教科書・参考文献	教科書：　新・基本保育シリーズ　19　子育て支援　中央法規
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「３」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験（100%）を原則とし、グループディスカッション（積極性、論理的思考、他者への配慮）の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
子ども家庭福祉	専門教育科　目	講　義	2	S204

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
太　田　　望	1	後　期	必　修		◎	

授業概要	子どもをとりまく家庭福祉の歴史的背景や子どもの権利、現代の諸問題等について、探究活動を行うことで、保育を担う者としての考え方や探究方法を身につける。
到達目標	・歴史的背景や子どもの権利、現代の諸問題等についてグループで考え、調べたことを発表することができる。 ・取り組んだ課題について、他の学生からの質問に答えることができる。
授業の方法	アクティブ・ラーニング形式で、グループでの調べ学習・発表を行う。 発表したグループ以外は質問を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業内容の教科書の該当部分を読んでおき、予習復習とする(20 分程度)。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション・家庭福祉とは	9	子育て支援・次世代育成支援と保育施策(グループワーク)
2	現代社会と児童家庭福祉(グループワーク)	10	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策(グループワーク)
3	子どもの人権①近代以前と子どもの権利条約(グループワーク)	11	子どもの虐待と DV 問題の防止施策(グループワーク)
4	子どもの人権②日本(グループワーク)	12	社会的擁護を必要とする子どもへの福祉施策(グループワーク)
5	児童家庭福祉の成立と展開(グループワーク)	13	障害がある子どもへの福祉施策(グループワーク)
6	児童家庭福祉の法体系(グループワーク)	14	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援(グループワーク)
7	児童家庭福祉の行財政(グループワーク)	15	児童家庭福祉の専門職と連携(グループワーク)
8	児童家庭福祉の機関・施設(グループワーク)		

教科書・参考文献	『みらい×子どもの福祉ブックス　児童家庭福祉』(みらい)　『つながる保育スタート BOOK ～プロジェクト・アプローチを通して研究を支える』(東洋館出版)
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	オフィスアワーにて随時受け付ける。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ワークシート・レポート(50%)、グループでの調べ学習・発表(50%)で総合的に判断して評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校で教育経験のある教員が授業を行う。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保 育 原 理	専門教育科　目	講　義	2	S104

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
小林　恵理子	1	前　期	必　修		◎	◎

授業概要	保育とは何か、保育を取り巻く制度や環境、世界や日本の保育の歴史など、保育者になるための基本的な事項について理解を深めることが目的である。具体的には、保育の意義及び目的、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法などについて考える。
到達目標	1. 保育の意義と目的を説明できる。 2. 保育所保育指針に示されている保育の基本を説明できる。 3. 保育計画にかかわる保育目標や内容、方法を考察し説明できる。
授業の方法	主に配布プリントやＤＶＤ等映像・資料等を用いて講義形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう(１５分程度)。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する(３０分程度)。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション:保育とは	9	保育方法
2	保育制度１:幼稚園とは	10	保育計画と評価
3	保育制度２:保育所とは	11	子育て支援と地域連携
4	新しい保育制度:子ども・子育て支援新制度	12	世界の保育の歴史
5	幼稚園教育の基本	13	日本の保育の歴史
6	保育所保育の基本	14	グループディスカッション (実習を通して学んだことの情報交換)
7	子どもの発達の理解と保育	15	保育の現状と課題
8	保育内容		

教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(いずれもフレーベル館)
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	定期試験後に再試験対象者のみ、課題（試験やレポート等）を返却する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	定期試験とレポートで総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
社会的養護Ⅰ	専門教育科　目	講　義	2	S106

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
長谷山　哲平	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	社会的養護を支える理念の理解、日本そして世界における社会的養護の現状と課題、望ましい社会的養護の実現に向けた法および政策の理解。
到達目標	本講義では、社会的養護の求められる背景や歴史、理念を理解する。その上で、社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する。また、社会的養護で求められる保育者の専門性を理解する。
授業の方法	講義形式で行う。また適宜教科書を参照しながらすすめる。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。
予習・復習等及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習(30 分程度)し、必要に応じて資料を読み予習をしておく(20 分程度)、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	貧困対策
2	社会的養護とは	10	現代保育の諸問題
3	社会的養護の歴史	11	保育者の専門性
4	社会的養護の基本原理	12	諸外国における子育て支援
5	社会的養護の体系、施設養護①	13	世界の子育て
6	施設養護②	14	講義内容の振り返り①
7	女性の貧困	15	講義内容の振り返り②
8	孤独死		

教科書・参考文献	「現代保育論Ⅰ」保育方法研究会編（一藝社）
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	試験終了後、押さえるべき重要事項の確認を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育実習指導Ⅰ（保育所）	専門教育科　目	演　習	※	S401

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
藤　村　　敦	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	教科書やプリント，DVD を用いて，保育実習Ⅰの目的や具体的内容，方法，実習生としての心構えを学ぶ。また，実習に必要な基本的な知識に関する学びを深める。
到達目標	「保育実習Ⅰ」の目的が分かり，その具体的内容や方法，実習生としての心構え等を理解する。また，保育実習Ⅰに必要な基本的知識を習得する。
授業の方法	主に講義形式で行い，教科書（保育指針解説等），プリント，DVD 等を用いながら，保育への理解を深める学習を行う。保育内容についての理解度を確認するために，小テストを行うとともに，学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるための演習なども行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業後に配布プリント，教科書（保育指針解説等）を基に，授業内容を振り返り，学んだ内容について，実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1 時間程度）。また，小テストに向け，授業内容の復習に相当時間必要。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション，保育実習Ⅰの位置付け	9	保育指針，教育・保育要領の理解③
2	保育所とは	10	保育指針，教育・保育要領の理解④
3	保育士の倫理	11	保育指針，教育・保育要領の理解⑤，小テスト
4	保育者に求められる資質	12	保育実習課題
5	保育ニーズと保育制度，保育の種類	13	保育実習日誌の書き方
6	保育所の生活と 1 日の流れ	14	実習計画と指導案
7	保育指針，教育・保育要領の理解①	15	実習直前指導と自己評価に関する説明
8	保育指針，教育・保育要領の理解②		

教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編，保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編，参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%），授業内小テスト（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60 点以上で合格とする。 単位は保育実習指導Ⅰ（施設）と合わせて２単位とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育実習指導Ⅰ（施設）	専門教育科目	演　習	※	S401

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
阿　部　千　春	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	本授業では，保育実習の中の「社会福祉施設」実習について，その意義や位置づけを理解するとともに，実習で必要な基本的な知識，技術，態度等を習得します。
到達目標	既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて，自己の課題を明確にすることをめざします。
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行います。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。10 回目に実習施設の施設長による講話を受講します。課題の提出，授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の理解③
2	社会福祉施設実習の目的と内容	10	施設長による講話
3	社会福祉施設の基本的理解	11	施設実習事前学習①
4	社会的養護施設の理解①	12	施設実習事前学習②
5	社会的養護施設の理解②	13	実習の計画と記録
6	社会的養護施設の理解③	14	実習課題の設定
7	障害児(者)関係施設の理解①	15	実習直前指導
8	障害児(者)関係施設の理解②		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	提出した課題について，所見をつけて返却します。また，テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。
学習成果との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学習成果「１」「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，提出されたレポート等の課題（60%），確認テスト（40%）によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育実習Ⅰ（保育所）	専門教育科目	実　習	※	S404

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
池田　隼・太田　望・藤村　敦	1	集　中	選　択		◎	

授業概要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し，乳幼児に対する理解や保育所の役割，保育士の職務等について学ぶ。
到達目標	これまでの大学での学びを生かして，積極的に保育所での活動に参加し，乳幼児の発達や保育内容，保育環境，保育士の職務等について実践的に理解する。
授業の方法	保育所にて 10 日間以上と社会福祉施設にて 10 日間以上，合計 20 日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅰを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅰで指定された準備を行っておくこと。
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授　業　計　画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編，保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	面談を行い，これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに，今後の課題に関する共通理解を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「２」「３」「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「３」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価（70%），実習日誌（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60 点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ（施設）と合わせて４単位とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育実習Ⅰ（施設）	専門教育科　目	実　習	※	S404

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
阿部　千春・土谷　育代	1	集　中	選　択		◎	

授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的視点からの施設機能や役割，利用児（者）への理解を深めます。
到達目標	社会福祉施設での実習を通して，保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。
授業の方法	保育所にて 10 日間と社会福祉施設にて 10 日間，合計 20 日間の必修実習となります。実習日誌とレポート，自己評価表の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。実習に備え，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにします。
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授　業　計　画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，レポート，自己評価表（ルーブリック評価）を用い，事後指導のための面談を行います。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「２」「４」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「３」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，実習施設からの評価（50%），実習日誌（30%），レポート（20%）を基に総合的に評価して，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
子どもの食と栄養	専門教育科　目	演　習	2	S207

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
村田　まり子	1	前　期	選　択		◎	

授業概要	子どもの食生活は、生涯にわたり健康な生活の基礎となる。そのことを踏まえて健やかな心身の発達を助長するために、栄養素の基礎知識からはじめ、授乳期から学童期までの食生活のあり方を検討する。
到達目標	保育者としての子どもの食生活に関わる基本的知識を理解する。また、自分自身の食生活を振りかえる機会とする。
授業の方法	教科書を用い、講義形式およびアクティブ・ラーニングで行う。毎回、レポート提出を課す。
予習・復習等及び必要時間(分)	各回の授業において１時間程度の予習・復習が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション	9	子どもの発育・発達と食生活（4）学童期・思春期
2	子どもの心身の健康と食生活	10	食育の基本と内容（1）食育基本法
3	子どもの食生活の現状と課題	11	食育の基本と内容（2）地域との連携、保護者への支援
4	栄養の基本的概念と食事摂取基準	12	家庭における食事と栄養
5	栄養に関する基本的知識	13	児童福祉施設における食事と栄養
6	子どもの発育・発達と食生活（1）授乳期	14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
7	子どもの発育・発達と食生活（2）離乳期	15	まとめ
8	子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期		

教科書・参考文献	教科書：子どもの食と栄養　学建書院 参考資料：保育所保育指針（厚生労働省）　栄養素キャラクター図鑑　日本図書センター
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	毎回のレポートを評価し返却する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が 60 点以上で合格
実務経験と担当科目内容との関連	各給食施設において給食管理および栄養管理の実務を栄養士、管理栄養士として担当した。また、教育機関においては、専門学校、短期大学食物栄養科、大学食物栄養学科、および大学院人間生活学研究科に所属し、給食経営管理を中心とした生活科学に関する授業を担当した。特に、修士課程（健康科学）においては、保育所給食について検討した。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
乳児保育 Ⅰ	専門教育科目	講　義	2	S209

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
石山　真由美	1	前　期	選　択		◎	

授業概要	乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や３歳未満児の発育・発達について学ぶ。
到達目標	法律や３歳未満児の発育・発達について学び、乳児保育の現状について理解する。
授業の方法	講義形式で授業を行い、テキスト・ワークシート・DVD などの補助教材を用いながら理解を深める。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業の中でいくつか課題を出し取り組むため、教科書・その他の参考文献により取り組みながら予習復習に６０分程度必要
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	乳児のこころの発達
2	乳児保育はなぜ必要か	10	乳児のことばの発達
3	乳児保育の成り立ちを知ろう	11	乳児のからだ
4	「子ども子育て支援新制度」	12	乳児における複数担任制
5	知っておきたい法律のいろいろ	13	保育所で過ごす一日の流れ
6	「保育所保育指針」とは	14	保護者との連携を考えよう
7	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント	15	発達の遅れと向き合う　まとめ
8	人生の基礎としての乳児期		

教科書・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育　（同文書院） 保育所保育指針解説書　（フレーベル館）
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内の課題を基に事例を提示し全体で振り返りを行うとともに解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験６０点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	現職の認定こども園園長が、これまでの保育者としての経験を活かし乳児保育の基本や保育方法等について授業を行う。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
乳児保育 Ⅱ	専門教育科　目	演　習	1	S210

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
石山　真由美	1	後　期	選　択		◎	

授業概要	乳児保育Ⅰの理論を基に実践を学習する。対象に合わせた乳児の日常生活の保育・援助を具体的にその方法を身につける。
到達目標	子どもの生活援助、発達への援助を身につける。演習科目なので様々な実技を習得する。
授業の方法	講義と演習を組み合わせて行う。グループ演習を取り入れる。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業の予習と復習に６０分程度
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	乳児保育における安全管理①
2	だっこ・おんぶのしかた	10	乳児保育における安全管理②
3	乳児の衣類の基礎知識	11	連絡翔の書き方
4	おむつ替えと「おむつはずれ」	12	遊びのアイディアと歌遊び
5	授乳のしかたとその準備	13	ふれあい体操
6	離乳食の基礎知識	14	乳児の想像力をはぐくむためのおすすめ絵本
7	沐浴・清拭のしかた	15	まとめ
8	保育環境の衛星管理		

教科書・参考文献	はじめて学ぶ　乳児保育　　同文書院
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	演習レポートを提出し、グループワークで討論する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験６０点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
教育原理	専門教育科目	講　義	2	S110

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
乳　井　英　雄	1	前　期	必　修	◎	◎	◎

授業概要	①教育とは何か　②教育の変遷と現状把握　③諸問題の発見とディスカッション
到達目標	教育の本質、教育の意義、教育の思想に関する知識を身に付ける。また、現代社会の教育問題や学校・地域・家庭における教育の現状を理解できるようになる。
授業の方法	補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。
予習・復習等及び必要時間(分)	指定文献を一読すること（３０分)。講義内容を振り返り疑問点を考える（３０分)。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンスおよび教育を考えることの意義	9	教育制度の現状と課題
2	教育とは何かⅠ	10	生涯教育の現状と課題
3	教育とは何かⅡ	11	保育と教育の歴史的変遷
4	教育の思想についてⅠ	12	家庭・学校・地域と子どもの現状
5	教育の思想についてⅡ	13	子どもに関する社会・教育問題
6	家庭と教育の現状と課題	14	子どもと社会における諸問題の発見
7	学校と教育の関連性	15	グループディスカッションとまとめ
8	地域社会における教育の在り方		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領および認定こども園教育・保育要領　「幼児教育の原理」　岸井勇雄
課題(レポート･テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「４」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	定期試験にて６０点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
幼児理解の理論	専門教育科　目	講　義	2	S112

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
阿　部　千　春	1	後　期	選　択	◎	◎	

授業概要	幼児の発達を理解し，個々の発達程度の違いや心の葛藤などを観察から捉える理論と技法を学ぶとともに，保護者に対する対応等を習得することを目的とします。
到達目標	幼児の理解や対応に生かせる心理学やカウンセリングの理論と技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。
授業の方法	教科書と講義資料を用い，講義形式で行います。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験の受験が単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(30 分程度) 授業後は，講義資料とハンドブック，ワークブックを読んで復習し，学習した内容の要点をノートにまとめます。(30 分程度)
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	ガイダンス	9	カウンセリングの言語的技法②
2	教育相談の現状とその必要性	10	カウンセリングの非言語的技法
3	保育者・援助者の基本的な構え	11	対人関係・集団づくりに生かす理論と技法
4	幼児期における心理的特性とその対応	12	アセスメントの方法と面接技法①
5	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論①	13	アセスメントの方法と面接技法②
6	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論②	14	保護者への対応
7	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論③	15	講義総括
8	カウンセリングの言語的技法①		

教科書・参考文献	教科書： NPO 日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」図書文化
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。
学習成果との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学習成果「１」「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験（80%），授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し，単位認定を行います。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育内容総論	専門教育科　目	演　習	2	S211

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
村田　あきの	1	後　期	選　択	◎	◎	

授業概要	保育とはどのように構成されているのかについて各領域や指針の関連を学び、子どもの発達過程や実態に応じて保育を構成するために必要な考え方や視点を身につける。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 ４，保育の多様な展開について具体的に理解する。
授業の方法	内容に応じて示された課題について、グループもしくは個人でディスカッションや制作に取り組む。各回でワークシートを課す。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前に発表の練習や制作をする／授業資料を読んでおく（３０分） 復習として返却されたワークシートを確認し、講義資料を読む（３０分）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション　保育内容総論の基本	9	領域の関連性を考えた保育の計画と実践 パネルシアターの概要と作品紹介
2	領域の相互関連性と保育の全体構造	10	パネルシアターの作品を作る（1）
3	子どもの興味・関心・発達や生活に即した保育内容	11	パネルシアターの作品を作る（2）
4	子どもの遊びと保育内容（1）	12	パネルシアターの演じ方を構成する
5	子どもの遊びと保育内容（2）	13	パネルシアターを演じる（1）
6	環境を通して行う保育	14	パネルシアターを演じる（2）
7	保育内容の変遷と社会的背景	15	ふり返り活動とフィードバック
8	保育の多様性		

教科書・参考文献	
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ワークシートは回収後、必要に応じてコメントを加える。ディスカッションや発表の際は個別もしくは全体にフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	授業内の課題　６０％ 発表　４０％
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
教育心理学	専門教育科　目	演　習	1	S113

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
藤　村　敦	1	前　期	必　修	◎	◎	

授業概要	教科書やプリントを用いて子どもの発達や学びについての代表的な理論を学ぶ。 学んだ理論を実際の保育場面に当てはめて考える演習を行う。
到達目標	子どもの発達や学びについての代表的な理論について理解を深めるとともに，実際の保育場面において，どのように理論を生かすことができるのかについて自分なりの意見をもつことができる。
授業の方法	主に講義形式で行い，教科書やプリントを用いて代表的な理論を理解する学習を行う。また，各理論について理解を深めるための演習も行う。理論の理解の程度を確認するために，小テストを２回行うとともに，理論をどのように生かすことができるかについて考えを深めるために，各講義で演習課題を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業で扱うテーマについて，事前に教科書を読んだり，インターネットで調べたりしておいてください（30 分程度)。授業後に配布プリント，教科書を基に，授業内容を振り返り，学んだ理論について，実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください（30 分程度)。
履修条件	特にありません

授　業　計　画

1	オリエンテーション（心理学と実践との関連）	9	子どもの学びを把握する（知能検査）
2	子どもの発達①（発達段階を中心に）	10	子どものパーソナリティ
3	子どもの発達②（心の理論を中心に）	11	子ども同士のかかわりの実際，小テスト 1 回目
4	子どもの発達③（道徳性の発達を中心に）	12	学習評価
5	子どもの学び①（学習理論）	13	個に応じた支援の在り方，小テスト 2 回目
6	子どもの学び②(内発的動機づけ・外発的動機づけ)	14	発達障がいとその援助
7	子どもの学び③（欲求階層構造説を中心に）	15	保育における発達援助
8	記憶の仕方と学習		

教科書・参考文献	教師になる人のための学校教育心理学（ナカニシヤ出版）越良子編，参考文献：スタンダード教育心理学（サイエンス社）服部環・外山美樹編
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「１」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%），授業内小テスト（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60 点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が，具体的な事例を基にして授業を行う。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
教育課程論	専門教育科　目	講　義	2	S115

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
飯　田　泰　子	1	後　期	選　択	◎	◎	

授業概要	幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育所・認定こども園等における指導計画立案の必要性について学習する。
到達目標	幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実情を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んでいくことを目的とする。
授業の方法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。また、指導計画作成の演習を４～５回取り入れ、より実践的な学習を進めていく。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業で配布した資料とノートの要点をまとめる復習（３０分）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス・指導計画の意義	9	演習（週日案の作成）
2	教育課程・全体的な計画（保育課程）と指導計画の関連	10	保育における反省・評価
3	さまざまな教育課程の変遷	11	子育て支援と指導計画
4	演習（子どもに経験させたい年間の活動）	12	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携
5	保育の実践と保育者の役割	13	幼児理解と評価・指導計画改善のポイント（カリキュラムの PDCA サイクルの考え方）
6	長期・短期の指導計画	14	まとめの演習
7	演習（日案の作成）	15	全講義復習と確認、まとめ
8	園行事の意義と役割		

教科書・参考文献	就学前教育の計画を学ぶ 幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	演習やレポートの添削によるフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	演習、レポートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目内容との関連	現職幼稚園園長が、行事や実際の現場の事例を交え授業を行う。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育内容研究Ⅱ(言葉)	専門教育科　目	演　習	2	S311

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
村田　あきの	1	前　期	必　修	◎	◎	

授業概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を理解し、乳幼児の言語の発達について理解したうえで、保育者として乳幼児の言葉に適切に関わる方法を学ぶ。
到達目標	1．人格形成の大切さと領域の考え方を理解する。 2．子どもたちの言葉を豊かに育むための関わり方を学ぶ。 3．人間としての成長や文化の発展について自ら考えることができる。
授業の方法	講義により当該領域に関する説明を行う。さらに、理解を深めるためにグループワーク等の活動を行い課題に取り組む。各回でワークシートの提出を課す。
予習・復習等及び必要時間(分)	予習としてテキストの指定箇所を事前に読む（２０分） 復習としてテキストの確認やノートの整理をする（２０分）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	オリエンテーション　領域「言葉」とは	9	書き言葉の発達と保育（1）
2	領域「言葉」と保育の方法	10	書き言葉の発達と保育（2）
3	子どもの発達と言葉（1）	11	言葉に関する諸問題（1）
4	子どもの発達と言葉（2）	12	言葉に関する諸問題（2）
5	前言語期のコミュニケーションと保育（1）	13	言葉を育む保育の構想（1）
6	前言語期のコミュニケーションと保育（2）	14	言葉を育む保育の構想（2）
7	話し言葉の機能と発達（1）	15	現代社会と言葉・ふり返り
8	話し言葉の機能と発達（2）		

教科書・参考文献	【教科書】 馬見塚昭久・小倉直子（2022）『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 【参考文献】 古橋和夫 編著（2016）『保育者のための言語表現の技術−子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践−』萌文書林
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ワークシートの回収後、必要に応じて個別あるいは全体へフィードバックを行う。グループワークでは個別やグループごとにフィードバックをする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	ワークシート　８０％ グループワークへの取り組み　２０％
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育内容研究Ⅲ(環境)	専門教育科　目	演　習	2	S312

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
毛　利　悦　子	1	前　期	必　修	◎	◎	

授業概要	○幼児期における環境の意味、○子どもと環境とのかかわり、○領域「環境」にかかわる指導の実際、○環境問題と子どもの生活について理解を深める。
到達目標	子どもと環境について探求し、持論をレポートにまとめる。
授業の方法	教科書，ＤＶＤ、担当教員作成資料を用い、講義及びグループ協議を行う。学外授業で地域環境を活用するとともに、情報機器を活用し学友の深化を図るようにする。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回の振り返りに１時間程度、予習に３０分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス　幼児教育の基本と環境	9	保育の実際「物や道具にかかわって遊ぶ」
2	領域「環境」の内容及び一年間の園生活	10	保育の実際「文字や数量図形に関心をもつ」
3	保育の実際「自然にふれる春・夏」	11	保育の実際「地域の文化や伝承遊びに親しむ」
4	保育の実際「自然にふれる秋」	12	指導計画と具体的な環境構成
5	保育の実際「自然にふれる冬」	13	子どもとメディア環境
6	保育の実際「生き物に親しみ、生命を大切にする」	14	現代社会における環境問題と子どもの生活①
7	保育の実際「自然を取り入れて生活する」	15	現代社会における環境問題と子どもの生活②
8	保育の実際「子どもと地域環境」		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園保育・教育要領
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポート作成に当たっては、自然観察の仕方や関連資料の紹介、内容などを個別に助言・指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	提出されたレポート等の課題評価　３回(100%)
実務経験と担当科目内容との関連	前職（幼稚園教諭・教頭・園長）時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用し、経験で得た事例や内容を基に、保育内容を講義する。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
保育内容指導Ⅲ(環境)	専門教育科　目	演　習	2	S317

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
毛　利　悦　子	1	後　期	選　択	◎	◎	

授業概要	領域「環境」にかかわる具体的な保育内容、指導計画、援助及び環境構成について探求する。 「感じる　体験する　調べる　考える　発表する」保育を探求する。
到達目標	応答的、想像的な保育の在り方を知り、実践力を身につける。
授業の方法	担当教員作成資料、DVD を用い、講義及びグループ演習、模擬保育等を行う。 学外授業等で地域・自然環境を活用するとともに情報機器を活用し学習の深化を図るようにする。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回の振り返りに１時間程度、予習に３０分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス 子どもの発達と環境及び援助　乳児期の幼児	9	模擬授業①「自然を取り入れた生活」指導計画の立案と教材準備
2	子どもの発達と環境及び援助　満３歳未満の幼児	10	模擬保育①「自然を取り入れた生活」実施、振り返りとまとめ
3	子どもの発達と環境及び援助　満３歳以上の幼児	11	模擬保育②「探求的な体験」指導内容の検討
4	領域「環境」保育の実際　地域環境を活用した保育	12	模擬保育②「探求的な体験」指導計画の立案と教材準備
5	領域「環境」保育の実際　メディアを活用した保育	13	模擬保育②「探求的な体験」実施、振り返りとまとめ
6	幼児期におけるアクティブラーニング	14	学外授業②　地域の文化や伝承遊びに親しむ
7	幼稚園と小学校のつながり　領域「環境」と小学「生活」	15	まとめ　創造的・発展的な保育の探求
8	学外授業　地域の環境と生活		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポートについては、自然観察とその取り入れ方、関連資料の紹介、内容等を個別に助言指導を行う。演習(模擬保育)については、グループ別に指導計画の立案、教材準備、環境構成などについて助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	演習２回(50%)　提出されたレポートの課題評価(50%)
実務経験と担当科目内容との関連	前職（幼稚園教諭・教頭・園長）時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
教育方法論	専門教育科　目	講　義	2	S116

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
乳　井　英　雄	1	後　期	選　択	◎		

授業概要	①教育方法と教育要領　②３つの方法論　③遊びを通じて育むとは　④プレゼンテーション
到達目標	教育・保育の方法理論とその技法を身に付ける。また、幼稚園教育要領を理解した上で、育みたい資質・能力を踏まえた指導方法を習得し、保育全体を見渡す知識・技能を身に付ける。
授業の方法	補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。
予習・復習等及び必要時間(分)	指定文献を一読すること。（３０分） 講義の内容を振り返り、疑問点を確認すること。（３０分）
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンスおよび教育方法を学ぶことの意義	9	参加包育の方法論Ⅱ
2	保育と幼児教育の考え方	10	5 領域の理解とカリキュラムの課題
3	教育方法における根拠と教育要領の関係性	11	育みたい資質・能力に基づいた評価の理解
4	導く保育の方法論Ⅰ	12	保育における教材活用の理論と方法
5	導く保育の方法論Ⅱ	13	保育環境における情報機器の活用と展開
6	見守る保育の方法論Ⅰ	14	グループディスカッション
7	見守る保育の方法論Ⅱ	15	全体プレゼンテーションとまとめ
8	参加包育の方法論		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領　こども園教育・保育要領　「教育課程の理論」　磯部裕子
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「４」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目です
成績評価の方法及び基準	定期試験にて６０点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング		
教育実習事前事後指導	専門教育科　目	演　習	※	S407		
担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
毛　利　悦　子	1	前　期	選　択	◎		

授業概要	附属認定こども園・附属大野幼稚園での基本実習のための事前指導、実習指導、事後指導を行い、心構えや準備、子ども理解、指導計画の理解を図る。
到達目標	体験を通して、子ども理解、幼稚園教育の役割を理解し、２年時の幼稚園教育実習への意欲を高める。
授業の方法	教科書・ビデオを用いる授業形式と指導計画の立案、教材研究(絵本の選択、読み語り等)の演習形式行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎回の振り返りに１時間程度、予習に３０分程度必要。 教材研究、レポート作成に相当時間が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス　教育実習の概要	9	教材研究①
2	教育実習の目的	10	教材研究②
3	教育実習の心構えと準備①	11	指導計画の立案
4	教育実習の心構えと準備②	12	教育実習に対する自己課題
5	教育実習の心構えと準備③	13	教育実習事後指導　グループ協議①
6	附属認定こども園見学と子どもとのふれあい	14	教育実習事後指導　グループ協議②
7	子ども理解と教師の役割①	15	教育実習事後指導　自己評価　まとめ
8	子ども理解と教師の役割②		

教科書・参考文献	自分でつくるBOOK&NOTE　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	教材研究、指導計画の立案、レポート作成については個別に、助言指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目です
成績評価の方法及び基準	教材研究及び指導案作成（40%）レポート３回（60%） ２年次教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※２年次、教育実習事前事後指導と合わせて１単位となる。
実務経験と担当科目内容との関連	前職（幼稚園教諭・教頭・園長）時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
こども園・幼稚園体験活動	専門教育科　目	実　習	1	S409

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
実習担当教員	1	集　中	選　択	◎		

授業概要	幼稚園免許を取得するための必修科目。附属認定こども園・大野幼稚園において、保育体験を及び園行事への参加をし、教師の役割と援助の実際について学ぶ。
到達目標	子ども理解、幼稚園教諭の役割を理解し、２年次の教育実習への意欲を高める。
授業の方法	附属認定こども園、附属大野幼稚園における体験学習。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録に２時間、準備に１時間必要。 体験学習の目的、教師の役割と援助についての予習の時間、絵本の語り聞かせの教材研究及び準備についての相当時間が必要。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画	
1	園生活一日の流れの観察と記録(継続) 子どもたちの生活の援助と子ども理解(継続) 一日の振り返りと環境整備(継続) 部分保育指導計画の立案と教材研究及(継続)
2	部分保育指導計画の見直しと教材準備
3	部分保育の教材準備
4	部分保育の実施と評価・反省
5	体験学習全体の評価・反省
6	園行事(運動会等)への参加
7	園行事(遊戯会等)への参加

教科書・参考文献	自分でつくるBOOK&NOTE　幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	実習園の評価・日誌・レポートにより2年次の教育実習に向け、不足を補いフィードバックしていく。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「１」「２」「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	実習園の評価(50%)　実習日誌(30%)　レポート(20%)
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
ピアノ表現法Ⅰ	専門教育科　目	演　習	1	S318

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
相原千鶴子・斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生	1	通　年	選　択			

授業概要	ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。
到達目標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。
授業の方法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする（１時間程度）必要がある。
履修条件	特にありません。

授　業　計　画

1	ガイダンス・シラバス説明	16	ト長調の和音…主和音・属和音No.35・No.36
2	ハ長調の和音…主和音・属七和音No.1～No.4	17	ト長調の下属和音No.37・No.38
3	分散和音の伴奏形（その１・その２）	18	いろいろな伴奏形（その１・その２）
4	分散和音の伴奏形（その３・その４）	19	いろいろな伴奏形（その３・その４）
5	４分音符と８分音符のリズムNo.21・No.22	20	高音部　No.43・No.44
6	４分音符と８分音符のリズムNo.23・No.24	21	高音部　No.45・No.46
7	ハ長調の下属和音No.25・No.26　小テスト	22	４分の３拍子と８分の３拍子
8	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.27・No.28	23	８分の３拍子と８分の６拍子
9	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.29・No.30	24	符点音符のリズムNo.49・No.50
10	ヘ長調の下属和音No.31・No.32	25	符点音符のリズムNo.51・No.52
11	ト長調の和音…主和音・属和音No.33・No.34	26	符点音符のリズムNo.53・No.54
12	課題の練習①	27	課題の練習①
13	課題の練習②	28	課題の練習②
14	課題の練習③	29	課題の練習③
15	課題の練習、小テスト	30	課題の練習、小テスト

教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	小テストによるフィードバック
学習成果との関連	当該学科の学習成果「３」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。
成績評価の方法及び基準	小テスト２回各２０点・試験６０点とする
実務経験と担当科目内容との関連	

科　目　名	分　類	授業区分	単　位	ナンバリング
国際保育理解	自由選択科　目	演　習	1	F102

担当教員氏名	年　次	開講期	卒業要件	資　格		
				幼	保	社
こども学科担当教員	1	集　中	選　択			

授業概要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。
到達目標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの１時間ほどの事前学習が必要。
履修条件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。

授　業　計　画

1	講義　オリエンテーション	9	研修旅行
2	事前研修　韓国語	10	研修旅行
3	事前研修　日韓の歴史的関係	11	研修旅行
4	事前研修　韓国の衣食住文化	12	研修旅行
5	事前研修　海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行
6	研修旅行	14	研修旅行
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ
8	研修旅行		

教科書・参考文献	なし
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「４」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「２」「３」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況 40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、 レポート 30%、による総合評価。
実務経験と担当科目内容との関連	

オフィスアワーについて(2023 年度)

オフィスアワーとは

オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。

なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。

また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間

教員氏名	曜日	時間帯
藤村　敦	火曜日	１６：２５～１７：２５
藤野明信	水曜日	１６：２５～１７：２５
乳井英雄	水曜日	１６：２５～１７：２５
毛利悦子	月曜日	１６：２５～１７：２５
渡谷能孝	月曜日	１６：２５～１７：２５
渋田昌士	月曜日	１６：２５～１７：２５
阿部千春	木曜日	１６：２５～１７：２５
伊藤　聡	月曜日	１６：２５～１７：２５
伊藤好一	金曜日	１６：２５～１７：２５
池田　隼	金曜日	１６：２５～１７：２５
太田　望	月曜日	１６：２５～１７：２５
土谷育代	水曜日	１６：２５～１７：２５
村田あきの	金曜日	１６：２５～１７：２５
今在景子	木曜日	１６：２５～１７：２５

http://hakodate-otani.ac.jp/

HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要2024　こども学科2年

こども学科

＜教育目的＞
保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対して
あたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

＜教育目標＞
１．［多様な専門性を身につけた保育者の養成］
　　社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
２．［人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成］
　　他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、
社会人としての人間形成に努める。
３．［心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成］
　　様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

＜学習成果＞
１．保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
２．子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
３．豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
４．保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

＜卒業認定・学位授与の方針＞
学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。
１．保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
２．子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
３．地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

［講義概要］
授　業
（１） 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
（２） 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
（３） 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
（４） 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
（５） 各講義の開講は次のとおりとする。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（終了）		2024年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	E105	4	3		2	講義	2				2	△		○	◎
	現代地域学論	E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	E201	2	1・2		2	演習	2			2		△		◎	
	英会話	E202	2	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	健康科学論	E301	1・2・3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	E302	1・2・3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
	総合教養演習	E401	4	3		1	演習		通年		通年		△			
専門教育科目	幼児音楽	S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習Ⅰ	S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習Ⅱ	S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	S306	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	S307	1・3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	S308	1・2・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	S309	1・2・3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化Ⅰ	S102	1	1・2	●	2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	S103	4	3		2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202	1・4	1	●	2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	S204	1	1		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	S205	1・4	3		2	講義	2			2		○		◎	
	保育原理	S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護Ⅰ	S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護Ⅱ	S107	4	1	●	1	演習	2			2		○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	S401	1・4	2		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	S403	1・2	1		1	演習	1			1		○			
	保育実習Ⅰ	S404	1・2・3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	S405	1・2・3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	S406	2・4	3		2	実習	6			6		○			
	子どもの保健	S206	2・4	1		2	講義	2				2	◎		◎	
	子どもの食と栄養	S207	1	1		2	演習	2		2			○		◎	
	子どもの健康と安全	S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎	
	乳児保育Ⅰ	S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎	
	乳児保育Ⅱ	S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎	

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（終了）		2024年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	S108	2・4	1	●	2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	S110	1・4	1		2	講義	2	2				◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	S111	1・2 3・4	1・3		2	講義	2				2	○	◎	◎	
	幼児理解の理論	S112	1・2	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	S211	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	S113	4	1		1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育財政学	S114	1・4	1		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	S115	1	2		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	S310	1・4	1		2	演習	2				2	◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	S311	」	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	S312	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	S313	1・2 3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	S314	1・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	S315	1・2 3・4	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	S316	1・2・3	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	S317	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	S116	1・4	1		2	講義	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	S408	1・2 3・4	3		3	実習	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	S410	1・2 3・4	1・2・3	●	2	演習	2				2	○	◎	◎	
	ピアノ表現法Ⅰ	S318	3	2		1	演習	2	1	1			○			
	ピアノ表現法Ⅱ	S319	3	2		1	演習	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。
卒業するためには、その他に△印の中から12 単位以上、○印の中から23 単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について
―教育実習（幼稚園本実習）―
教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

―保育実習（保育園・施設）―
実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10 日間80 時間以上とする。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	学位授与の方針	卒業認定・	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2023年（終了）		2024年（2年）		備考
										前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	S501	1・2 3・4	2			1	演習	2			2		
	こどもの音楽と遊び	S502	1・2・3	2			1	演習	2			2		
	こどもの健康と遊び	S503	1・2 3・4	2			1	演習	2				2	
保育福祉	地域福祉論	S604	4	3			2	講義	2			2		社会福祉主事（任）
	ボランティア活動論	S602	4	3			2	講義	2				2	
	福祉住環境コーディネイターⅠ	S603	4	3			1	演習	2			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701	1・2	1			1	演習	2				2	
	セラピー概論	S702	1・2	1			2	講義	2			2		
	保育心理演習	S703	1・2	1			1	演習	2			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目No.	学位授与の方針	卒業認定・	学習成果との関連	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2024年（1年）		2025年（2年）		備考
										前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	F101	2・3	2			2	演習	2				集中	
	国際保育理解	F102	4	2・3			1	演習	3		集中		集中	海外研修
	ウインタースポーツ	F103	1	3			1	演習	4				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数　：７単位

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
障害者福祉論	教養教育科目	講 義	2	E105

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	2	後 期	選 択		○	◎

授 業 概 要	障がい者福祉に関する歴史的変容、法体系、障害の種類と対応などの基礎的な知識を学習し、これからの障がい者支援について考えていく。
到 達 目 標	障がい者福祉に関する基礎的な知識の習得、障がいの状況に応じた支援の在り方、具体的な方法について理解を深めることをねらいとする。
授 業 の 方 法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を実践し、授業内にて質疑応答や現代における障がい者にかかわる福祉課題などについて、グループディスカッションを行うことで、アクティブ・ラーニング形式を導入した授業を展開する。
予習・復習等及び必要時間(分)	講義終了時に告知する次回の授業テーマについて、予め自己学習を行う。(30分程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(30分程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス、障害者基本法	9	認知症Ⅰ(種類)
2	障がいのとらえ方(ICF)	10	認知症Ⅱ(症状と支援)
3	ノーマライゼーション	11	リハビリテーション
4	障がい者の生活実態	12	レクリエーション
5	日本における障がい者福祉施策	13	障がい者雇用
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	14	障がい者の福祉課題(グループディスカッション)
7	高次脳機能障害	15	差別をなくすために
8	パーキンソン病		

教科書・参考文献	参考文献:社会福祉学習双書2024 障害者福祉論
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果の「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内試験(100%)を評価の原則とし、グループディスカッション(積極性、論理的思考、他者への配慮)の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点で授業を展開していく。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
英語	教養教育 科 目	演 習	2	E201

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
村田 あきの	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	多文化化が進む現代において、保育者は多様な背景を持つ乳幼児の保育を想定し、既存の英語知識を生かして、実際の現場でコミュニケーションをとる必要がある。この授業では、実際の保育の場面を想定し、適切な表現を身につける。また、英語劇等を通して英語による表現力を高める。
到 達 目 標	1. 英語に慣れ親しみ、音感を理解する 2. 保育に関連した場面で、状況に応じた口頭でのやり取りを可能にする 3. 英語を使った自己表現の方法を身につける
授 業 の 方 法	英語の歌や手遊びを聞いたり歌ったりする。テキストに沿って、語彙学習、ロールプレイ、リスニングをする。英語劇の台本、製作、発表をする。
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習:知らない語彙のチェック、発表の準備(30分) 復習:語彙や表現の暗記、発音練習、歌や劇を覚える(30分)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	体調不良の園児との会話・病気やケガ
2	保護者からの相談・食に関する表現	10	医療品・体の部位・ミニテスト
3	手洗いや歯磨き・食材の名前・レシピ	11	英語劇(1)グループ分け・台本作り
4	お昼寝時間の会話・指示の表現	12	英語劇(2)台本作り・小道具の製作
5	英語圏のジェスチャー・手遊び歌	13	英語劇(3)練習
6	降園時の会話・一日の活動や様子を伝える	14	英語劇(4)練習
7	園内行事・仮定の表現	15	英語劇(5)発表
8	体操の表現・Shall I…?／Will you…?		

教科書・参考文献	【教科書】 土屋麻衣子(2015)『Happy English for Childcare』金星堂
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	英語の歌・手遊び・ロールプレイの発表を各回で行い、都度口頭でフィードバックする。 英語劇では台本・舞台構成・発音・演出等について適宜コメントする。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ミニテスト 40% 英語劇 40% グループワーク・ワークシート 20%
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
音楽表現演習Ⅰ	専門教育科目	演 習	1	S303

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	2	前 期	必 修		◎	

授 業 概 要	保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法を学び、合奏する。手作り楽器や物語に音楽を付ける経験を通して豊かな感性と表現力を身につける。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、技能と表現力を高める。
到 達 目 標	・保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法を説明でき、合奏できる。 ・物語に音楽を付け、創造性豊かに音楽表現できる。 ・手作り楽器、ピアノ演奏、弾き歌いなど様々な音楽表現ができる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。復習に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション 子どもの発達と音楽表現	9	ピアノ弾き歌い小テスト
2	環境音① ピアノ演奏とピアノ弾き歌い①	10	絵本と音楽①
3	環境音② 子どもと楽器	11	絵本と音楽② ピアノ演奏とピアノ弾き歌い④
4	手作り楽器 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い②	12	絵本と音楽③
5	手作り楽器でリズム遊び 子どもの楽器の種類と演奏方法	13	絵本と音楽④
6	器楽合奏① ピアノ演奏とピアノ弾き歌い③	14	絵本と音楽発表(ディスカッション・まとめ) ピアノ弾き歌い
7	器楽合奏②	15	ピアノ弾き歌いの発表 まとめ
8	器楽合奏発表		

教科書・参考文献	教科書:神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:駒久美子編著『コンパス音楽表現』建帛社、佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ピアノ弾き歌い発表(50%)ピアノ弾き歌い小テスト(10%) 絵本と音楽発表(20%)課題(20%)
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
音楽表現演習Ⅱ	専門教育科 目	演 習	1	S304

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	2	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	「音楽表現演習Ⅰ」での合奏の実践を踏まえて、楽器の音色や特徴を理解して合奏をし、保育者に必要な音楽表現力を伸ばす。わらべうた、リトミックなど様々な体験をし、幅広い音楽表現を身につける。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、実践力を身につける。
到 達 目 標	・楽器の特徴をとらえ、合奏演奏を楽しく、豊かな感性で表現することができる。 ・わらべうた、リトミック、楽器演奏、弾き歌い等の様々な知識と技能を生かし、音楽表現活動を指導、援助ができる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、調査学習、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。合奏、課題の練習では復習に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション ピアノ演奏とピアノ弾き歌い①	9	ダルクローズの音楽教育・リトミック①
2	わらべうた①発表	10	ダルクローズの音楽教育・リトミック② ピアノ演奏とピアノ弾き歌い④
3	わらべうた②創作 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い②	11	器楽合奏①
4	わらべうた③創作発表	12	器楽合奏②
5	日本の幼児音楽教育の歴史と世界の音楽教育について オルフの音楽教育①	13	器楽合奏③ ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑤
6	オルフの音楽教育②ピアノ演奏とピアノ弾き歌い③	14	器楽合奏発表④
7	コダーイの音楽教育	15	ピアノ弾き歌いの発表 まとめ
8	ピアノ弾き歌い小テスト		

教科書・参考文献	教科書:神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:神原雅之・伊藤仁美著『1～5歳児がよろこぶ保育ではじめてリトミック』チャイルド本社、佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ピアノ弾き歌い発表(50%)ピアノ弾き歌い小テスト(10%) 器楽合奏発表(10%)課題(30%)
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
幼児体育	専門教育 科 目	演 習	2	S308

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼	2	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	運動遊びの実践を通し，運動の楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。
到 達 目 標	運動遊びの実践を通して，具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し，運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法を通して学習する。また，必要に応じて単元ごとに資料を配布し学びを深める。さらに，グループディスカッション及び発表等を実施しながら進めていく。
予習・復習等 及び必要時間(分)	各運動遊びにおける指導案の作成などの予習・復習が2時間程度必要である。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	表現遊び(ダンス①)
2	様々な運動遊び①	10	表現遊び(ダンス②)
3	様々な運動遊び②	11	表現遊び(ダンス③)
4	ボール遊び①	12	表現遊び(ダンス④)
5	ボール遊び②	13	表現遊び(ダンス⑤)
6	遊びの実践と振り返り①	14	表現遊び(ダンス⑥)
7	遊びの実践と振り返り②	15	表現遊び(ダンス発表)
8	遊びの実践と振り返り③		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの遊びの要点を再確認し，遊びやねらいに応じた指導・援助方法等について理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	実技(70%)，提出されたレポート等の課題評価(30%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。 ※後期と合わせて2単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育体育	専門教育科目	演 習	1	S309

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼	2	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	創作ダンスを通し，リズムとともに身体を動かすことの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などを学ぶ。
到 達 目 標	本科目は，幼稚園教諭・保育士として必要な創作ダンスの基礎を学び，ダンスの特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して保育現場で活用できる実践力を身につけることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。複数のグループを編成し，各グループでディスカッションを行いながら創作ダンスを完成させ，最終的に発表を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	創作ダンスの振りの作成や練習などの時間が各回1時間程度の予習・復習が必要である。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	創作ダンス⑤
2	ダンスの基礎と理論①	10	創作ダンス⑥
3	ダンスの基礎と理論②	11	創作ダンス⑦
4	ダンスの基礎と理論③	12	創作ダンス⑧
5	創作ダンス①	13	創作ダンス⑨
6	創作ダンス②	14	創作ダンス⑩(レポート提出)
7	創作ダンス③	15	ダンス発表
8	創作ダンス④		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとに進捗状況に関するフィードバックを行い，創作ダンスについて理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	実技(90%)，提出されたレポート等の課題評価(10%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
児童文化 Ⅰ	専門教育科目	講 義	2	S102

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	2	前 期	必 修		◎	

授 業 概 要	現代を生きる子どもたちの現状に目を向けつつ、文化的に豊かな生活を営むことを考えると共に児童文化・児童文化家財についての知識を深め、保育現場における児童文化の展開について学ぶ。
到 達 目 標	子どもの心を豊かにはぐくむために、保育の内容における児童文化財の位置づけや基礎的な知識・技能・感性を身につける
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。演習やグループワーク等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業の振り返りに30分程度・次回の予習に30分程度
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス 児童文化とは	9	児童文化財を保育に生かす(おはなしを語る)
2	ことばと表現力を育む児童文化	10	児童文化財を保育に生かす(絵本と童話)
3	保育の中で児童文化を考える	11	児童文化財を保育に生かす(紙芝居)
4	児童文化の歴史	12	シアタースタイルの児童文化財 演習
5	子どもの育ちと児童文化	13	児童文化財を保育に生かす(おもちゃ)
6	児童文化財を保育に生かす(わらべ歌・あそび歌)	14	児童文化財を保育に生かす(伝承遊び)
7	児童文化財を保育に生かす(ことば遊び) 演習(かるた作り) ①	15	児童文化財を保育に生かす まとめ
8	児童文化財を保育に生かす(ことば遊び) 演習(かるた) ②		

教科書・参考文献	ことばと表現力を育む児童文化 萌文書林 幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
子ども家庭支援の心理学	専門教育科 目	講 義	2	S202

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
乳井 英雄・工藤 絵里	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	現代社会の家族や子育てに関する問題について、心理学的な視点から事象を読み解けるように、テキストに沿った講義で学ぶ。社会問題となっている事例について考察し、グループディスカッションを通して理解を深める。
到 達 目 標	子育て家庭をめぐる現代社会的状況と課題について理解する。また、支援のあり方について、様々な実践などを基に、理解できるようになる。
授 業 の 方 法	講義資料を用い、講義形式で行う。また、グループディスカッションなどアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた演習を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。(30分程度) 授業後は、教科書と講義資料を読んで復習し、学習した要点をノートにまとめる。(30分程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス/子育て家庭支援の視点	9	特別なニーズを持つ家庭と援助③
2	生涯発達と初期経験の重要性	10	子どもの精神保健と課題①子どもの心の理解
3	家族・家庭の理解	11	子どもの精神保健と課題②幼児期の精神保健
4	子育てを取り巻く社会的状況	12	子どもの精神保健と課題③児童期・青年期
5	ライフコースと仕事、子育て	13	子どもの精神保健と課題④喪失体験への対応
6	多様な家庭とその理解	14	児童虐待
7	特別なニーズを持つ家庭と援助①	15	事例を通した考察
8	特別なニーズを持つ家庭と援助②		

教科書・参考文献	教科書:「子ども家庭支援の心理学」 松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・日比暁美・堀口美智子著 ななみ書房　適宜資料配布 保育所保育指針
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートは、授業内に返却し解説する。テスト解説をすることで、誤答問題の見直しができるようにする。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	筆記試験(70%)、提出されたレポート課題(30%)で総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	小学校教員、相談員、支援員の実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、家庭支援に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
子ども家庭支援論	専門教育科 目	講 義	2	S205

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
齋藤 征人	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、実践方法、技術等を学ぶ。
到 達 目 標	保育の現場で働くことを目指す者として「家庭」について理解できる。 子どもを取り巻く生活状況の多様性を理解できる。 子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援について理解できる。
授 業 の 方 法	教科書を用い、講義形式で行う。授業内で課す小レポートを提出することが単位認定の必須条件。 原則として、テストの欠席は認めず代替措置も講じない。
予習・復習等及び必要時間(分)	教科書について各回1時間程度の予習が必要、また授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が1時間程度必要となる。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	子ども家庭支援の意義と必要性	9	家庭の状況に応じた支援
2	子ども家庭支援の目的と機能	10	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	11	子ども家庭支援の内容と対象
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	13	地域の子育て家庭への支援
6	子どもの育ちの喜びの共有	14	要保護児童およびその家庭に対する支援
7	保護者・地域が有する子育て実践力の向上	15	子育て支援に関する課題と展望
8	保育者に求められる基本的態度		

教科書・参考文献	松原康雄・村田典子・南野奈津子編(2019)『子ども家庭支援論』中央法規
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	適宜講義中に紹介する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	定期試験(60%)、提出されたレポート等の課題評価 (40%)。
実務経験と担当科目内容との関連	経験あり 社会福祉法人に勤務し、ソーシャルワークにたずさわった経験をもとに、支援の現場で求められる知識・技術について実践的な学びを深める。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育原理Ⅱ	専門教育科 目	講 義	2	S105

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村　敦	2	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	保育所保育指針における保育の基本，保育の目標と方法に焦点をあて，その内容について理解を深めるとともに，その実際について学びを深める。 保育所保育指針の内容と他の授業の内容との関連について学ぶ。
到 達 目 標	保育原理の中でも，主に保育所保育指針における保育の基本，保育の目標と方法に焦点をあて，子ども理解と保育内容の具体等について理解を深める。
授 業 の 方 法	教科書（保育所保育指針）を用いて，保育の基本，目標と方法等を理解する学習や，保育の基本と他の授業での学習内容とを関連付ける学習を行う。各講義において学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるアクティブラーニング形式の演習等を行う。発達や保育内容についての理解度を確認するために，小テストを2回行う。
予習・復習等及び必要時間（分）	授業で扱うテーマについて，事前に教科書を読んでおいてください（30分程度）。授業後に配布プリント，教科書を基に，授業内容を振り返り，学んだことについて，実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください（30分程度）。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション，保育の意義	9	乳幼児理解と保育の計画②
2	乳幼児の遊びと指導①	10	健康及び安全に関する指導①，小テスト1回目
3	乳幼児の遊びと指導②	11	健康及び安全に関する指導②
4	乳幼児の遊びと指導③	12	保護者に対する支援，小テスト2回目
5	乳幼児期の発達と保育内容①	13	保育の現状と課題①
6	乳幼児期の発達と保育内容②	14	保育の現状と課題②
7	乳幼児期の発達と保育内容③	15	講義内容の振り返り
8	乳幼児理解と保育の計画①		

教科書・参考文献	保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%），授業内小テスト（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が，具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
社会的養護Ⅱ	専門教育科 目	演 習	1	S107

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村　敦	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	プリントを用いて社会的養護の実際について理解を深め，個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点について学ぶ。 得られた多面的な視点を基にして，具体的な支援を考える演習を行う。
到 達 目 標	社会的養護の実際について理解を深めるとともに，個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点を得ることができる。さらに，事例について，多面的な視点で適切な実態把握を行い，それを基にして，具体的な支援計画を作成することができる。
授 業 の 方 法	プリントを用い，様々な事例を基にして社会的養護の実際を理解する学習を行う。また，各講義では，事例に登場する児童・保護者に対しての具体的な対応について考えるアクティブラーニング形式の演習も行う。授業の最後にはアクティブラーニング形式のグループワークを行い，具体的な支援計画を作成する演習も行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業後に配布プリントや参考文献を基に，授業内容を振り返り，社会的養護の実際について理解を深めるとともに，学んだ視点を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション(社会的養護の対象者)	9	社会的養護の内容②(治療的支援)
2	施設養護の実際①(乳児院を中心に)	10	社会的養護雄内容③(自立支援)
3	施設養護の実際②(児童養護施設を中心に)	11	支援計画の評価と改善，ジェノグラム
4	施設養護の実際③(障がい児入所施設を中心に)	12	社会的養護等の課題
5	社会的養護における倫理及び責務	13	社会的養護にかかわる専門技術①(グループワーク)
6	家庭養護の実際	14	社会的養護にかかわる専門技術②(グループワーク)
7	アセスメントと支援計画の作成(概要の理解)	15	社会的養護にかかわる専門技術③(グループワーク)
8	社会的養護の内容①(日常生活支援)		

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：社会的養護Ⅱ(中央法規)相澤仁・村井美紀・大竹智編
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(50%)，グループワークを基に作成するレポート(50%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が，具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習指導Ⅱ	専門教育科 目	演 習	1	S402

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村　敦	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	教科書やプリントを用いて，保育実習Ⅱの目的や具体的内容，方法を学ぶ。 実習に必要な多様な視点や，実習内容と他の授業内容との関連について学ぶ。
到 達 目 標	保育実習Ⅱの目的が分かり，その具体的内容や方法を理解する。また，これまでの様々な授業で学んだことを生かし，子どもの実態に則した指導案を具体的に作成することができる。
授 業 の 方 法	教科書（保育指針解説等），プリントを用いながら，保育への理解を深める学習を行う。学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるアクティブラーニング形式の演習を行うとともに，グループワークを基に，具体的な指導案を作成するアクティブラーニング形式の演習を行う。
予習・復習等及び必要時間（分）	授業後に配布プリント，教科書（保育指針解説等）を基に，授業内容を振り返り，学んだ内容について，実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。
履 修 条 件	保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修済。

授 業 計 画

1	オリエンテーション，保育実習Ⅱの位置付け	9	指導計画の作成①
2	実習の目的と実際	10	指導計画の作成②
3	保育所の役割と機能①	11	事例を基にしたグループワーク①
4	保育所の役割と機能②	12	事例を基にしたグループワーク②
5	実習Ⅱの総合的な学び①（家庭支援を中心に）	13	保育士の業務と職業倫理
6	実習Ⅱの総合的な学び②（地域連携を中心に）	14	自己課題の明確化と実習日誌
7	保育の全体計画に基づく具体的計画と実践	15	評価とまとめ
8	保育の観察と記録		

教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編，保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編，参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（50%），レポート（50%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。保育実習Ⅱと連携させており，保育実習Ⅱが不可の場合は単位が認定されない。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習指導Ⅲ	専門教育科 目	演 習	1	S403

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	2	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的な視点から施設の機能や役割，現状，施設保育士の役割と他職種との連携，利用児(者)について理解を深められるようにします。
到 達 目 標	施設の機能や役割，専門職としての施設保育士の職務と職業倫理について具体的に理解できることを目的とします。
授 業 の 方 法	講義資料を用いて，講義形式で行います。また，グループワークやグループディスカッションなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。提出課題は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。(授業後1時間程度の復習)
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の役割と機能③
2	保育実習Ⅲの目的と内容	10	チーム支援
3	社会的養護施設の役割と機能①	11	施設で行う家族療法とペアレント・トレーニング
4	社会的養護施設の役割と機能②	12	援助者のメンタルヘルス
5	社会的養護施設の役割と機能③	13	リービングケアと自立支援①
6	社会的養護施設の役割と機能④	14	リービングケアと自立支援②
7	障害児(者)関係施設の役割と機能①	15	職場内研修
8	障害児(者)関係施設の役割と機能②	16	評価とまとめ

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	提出した課題について，確認後，授業の際に返却します。実習時の参考資料として活用するようにしてください。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，提出されたレポート等の課題(70%)，授業後に提出するリアクションペーパー(30%)によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習Ⅰ(保育所)	専門教育科目	実 習	※	S404

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼・太田 望	1・2	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し，乳幼児に対する理解や保育所の役割，保育士の職務等について学ぶ。
到 達 目 標	これまでの大学での学びを生かして，積極的に保育所での活動に参加し，乳幼児の発達や保育内容，保育環境，保育士の職務等について実践的に理解する。
授 業 の 方 法	保育所にて 10 日間以上と社会福祉施設にて 10 日間以上，合計 20 日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅰを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅰで指定された準備を行っておくこと。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書・参考文献	保育実習(中央法規)近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編，保育所保育指針解説(フレーベル館)厚生労働省編
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	面談を行い，これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに，今後の課題に関する共通理解を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価(70%)，実習日誌(30%)を基にして，総合的に評価を行い，60 点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ(施設)と合わせて4単位とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習Ⅰ(施設)	専門教育科目	実 習	※	S404

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春・工藤 絵里・土谷 育代	1・2	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的視点からの施設機能や役割，利用児(者)への理解を深めます。
到 達 目 標	社会福祉施設での実習を通して，保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。
授 業 の 方 法	保育所にて10 日間と社会福祉施設にて10 日間，合計20 日間の必修実習となります。実習日誌とレポート，自己評価表の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。実習に備え，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにします。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，レポート，自己評価表(ルーブリック評価)を用い，事後指導のための面談を行います。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，実習施設からの評価(50%)，実習日誌(30%)，レポート(20%)を基に総合的に評価して，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習Ⅱ(保育所)	専門教育科 目	実 習	2	S405

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼・太田 望	2	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に幅広く参加し，保育所の役割や保育士の職務等について，より実践的で総合的な理解を深める。
到 達 目 標	保育所での活動に参加し，乳幼児の発達や保育内容，保育環境，保育士の職務等についてより実践的・総合的に理解することができる。また，自らの指導計画を作成したり，地域社会との連携等，幅広い視点で保育所の活動を理解したりすることができる。
授 業 の 方 法	保育所にて 10 日間以上と社会福祉施設にて 10 日間以上，合計 20 日間以上の必修実習となります。実習日誌の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅱを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅱで指定された準備を行っておくこと。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書・参考文献	保育実習(中央法規)近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編，保育所保育指針解説(フレーベル館)厚生労働省編
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	実習後の保育実習指導Ⅱの授業内において，実習内容についての振り返りを行い，今後の課題を見出す学習を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価(70%)，実習日誌及び指導案(30%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育実習Ⅲ(施設)	専門教育科 目	実 習	2	S406

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春・工藤 絵里・土谷 育代	2	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的視点からの施設機能や役割，対象児(者)への理解を深めます。
到 達 目 標	社会福祉施設での実習を通して，保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とします。
授 業 の 方 法	社会福祉施設にて10 日間の選択必修実習となります。実習日誌とレポート，自己評価表の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにします。実習に備え，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにします。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，レポート，自己評価表(ルーブリック評価)を用い，事後指導のための面談を行います。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，実習施設からの評価(50%)，実習日誌(30%)，レポート(20%)を基に総合的に評価して，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
子どもの保健	専門教育 科 目	講 義	2	S206

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
小杉 あゆみ・齊藤 眞樹	2	後 期	必 修		◎	

授 業 概 要	子どもは自ら育つ力があるが、未成熟な子どもを援助して成熟へ向かわせる支援が必要である。子供の成長・発達は一様ではないが、正常や標準を理解する。身体と精神の発達に関わる保育者としての役割を学ぶ。
到 達 目 標	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。
授 業 の 方 法	講義中心であるが、グループ演習を組み合わせて行う。
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	子どもの生理機能の発達 ②
2	子どもの誕生までの過程と母子保健の重要性	10	子どもの運動機能の発達
3	健康に関する母子保健統計	11	子どもの精神機能の発達
4	出産と新生児の発育とリスク	12	保育の環境整備と環境衛生
5	子どもの身体発育① 母子手帳	13	母子保健政策
6	子どもの身体発育②	14	子どもの成長に関わる地域と施設
7	子どもの身体発育③ 発育評価	15	全体を通してのまとめ
8	子どもの生理機能の発達 ①		

教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 同文書院
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	課題レポートの提出と小テストを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60 点以上で合格
実務経験と担当科目 内容との関連	看護師としての実務経験と看護学校の教員として経験がある。広く保健について精通している教員が授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
子どもの健康と安全	専門教育科 目	演 習	1	S208

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
葛西 真理子	2	後 期	必 修		◎	

授 業 概 要	子どもの保健で基礎を学び、更に疾病や事故などへ発展させて学んでいく。 保育士に求められる役割は多岐にわたり、様々な事故・事例から一連を学ぶ。
到 達 目 標	子どもの疾病や事故などに対応することが求められる。時事問題を取り上げて、実際への対応を応用できる知識・演習を身に着け職業へとつなげる。
授 業 の 方 法	講義と演習を組み合わせて行う
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	感染症と予防接種
2	子どもの健康と安全の意義	10	子どもの事故と対応
3	子どもの健康状態と観察	11	事故の事例から学ぶ
4	子どもに多い病気と症状の対処①	12	救急法の実際
5	子どもに多い病気と症状の対処②	13	災害と保育士の役割
6	衛生管理と感染症	14	地域と保育園と保育士の役割
7	子どもに多い感染症①	15	全体を通してのまとめ
8	子どもに多い感染症②		

教科書・参考文献	子どもの保健 ―理論と実際―
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	保育現場での演習授業でのレポート提出、グループワーク等でフィードバックする。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60 点以上で合格
実務経験と担当科目 内容との関連	こども園園長が実際の保育現場での実務経験を交え授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
特別支援教育「基礎」	専門教育 科 目	演 習	2	S108

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村　敦	2	前 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	プリントを用いて様々な障がいの診断基準や特徴，及びそれに対応する支援の実際について学ぶ。様々な事例等を基に，子どもや保護者への具体的な支援方法について考える演習を行う。
到 達 目 標	様々な障がいとそれに対応する支援の実際について理解を深めるとともに，様々な事例等を基に，子どもや保護者への具体的な支援について考え，具体的な支援計画を考えることができる。
授 業 の 方 法	プリントを用いて様々な障がいやその支援の実際を理解する学習を行う。各講義では，事例などを基にして障がいのある子どもへの具体的な対応について考えるアクティブラーニング形式の演習も行う。様々な障がいの具体についての理解の程度を確認するために小テストを2回行う。
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱う各障がい等について，予め参考文献やインターネットで調べ，概要を理解しておいてください(30分程度)。授業後に配布プリントや参考文献を基に，授業内容を振り返り，学んだ各障がいの具体とその対応について理解をさらに深めるとともに，学んだ支援方法を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーション(障がいとは)	9	個々の発達を促す支援の在り方②(自立活動を中心に)
2	知的障がい児の理解と援助	10	個別の指導計画の作成①
3	発達障がい児(自閉スペクトラム症)の理解と援助	11	個別の指導計画の作成②
4	発達障がい児(AD/HD, LD)の理解と援助	12	クラス及び園全体での指導の枠組み，小テスト1回目
5	障がいはないが，特別の教育的ニーズのある子どもの理解と援助	13	保護者・家庭への支援
6	視覚障がい・聴覚障がい児の理解と援助	14	家庭及び関連機関との連携，小テスト2回目
7	肢体不自由・病虚弱児の理解と援助	15	障がい児保育の歴史と現状・課題
8	個々の発達を促す支援の在り方①(応用行動分析)		

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：障害児保育(中央法規)西村重稀・水田敏朗編
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題，小テストについては，次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し，振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題(60%)，授業内小テスト(40%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が，具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
教育カウンセリング	専門教育科目	講 義	2	S109

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	2	前 期	選 択	◎		

授 業 概 要	教育領域において，児童生徒が抱える心理的な問題あるいは発達的な問題，学校場面で遭遇する問題について理解し，具体的な対応の仕方などを教科書や体験を通して学びます。
到 達 目 標	教育カウンセリングに関する基礎的な知識を習得することをめざします。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(40分程度) 授業後は，教科書や講義資料，関連する書籍を読むなどして，復習してください。(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	不登校の理解と対応
2	教育カウンセリング概論	10	いじめの理解と対応
3	発達の理論	11	問題行動の理解と対応
4	構成的グループエンカウンターの原理	12	学級経営の考え方
5	構成的グループエンカウンターの実際	13	保護者への対応
6	アサーション・トレーニングの考え方と実際①	14	教師のメンタルヘルス
7	アサーション・トレーニングの考え方と実際②	15	講義総括
8	キャリアガイダンス		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版　教育カウンセラー標準テキスト　初級編」図書文化，参考文献：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版　教育カウンセラー標準テキスト　中級編」図書文化
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。また，具体的な学習方法について提示します。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育者・教師論	専門教育科 目	講 義	2	S111

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	2	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	幼児教育における保育者及び教師の役割と倫理を認識し、事例を通して考えながら、保育の専門性について考察する。
到 達 目 標	保育者・教師としての使命感、社会的責任感を自覚し、目指す保育者・教師像について考えをまとめる。
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。演習やグループワーク等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業の振り返りに30分程度・次回の予習に30分程度。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス 「保育者になる」ということ (保育者の役割と倫理及び制度的位置づけ)	9	保育者や家庭と一緒に歩む仕事① (保護者支援と専門機関との連携)
2	保育者の一日①	10	保育者や家庭と一緒に歩む仕事② (地域における子育て支援)
3	保育者の一日②	11	学び合う保育者① (語り合い・学び合うこと)
4	幼稚園・認定こども園における保育者の役割と 専門性	12	学び合う保育者② (園 組織として学び合う)
5	子どもの思いや育ちを理解する仕事	13	保育者の専門性とは何だろう
6	子どもと一緒に心と体を動かす仕事①	14	保育者・教師の使命と社会的責任 グループ協議
7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事②	15	目指す保育者・教師像 グループ協議
8	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事		

教科書・参考文献	保育者論 ミネルヴァ書房
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
教育財政学	専門教育科目	講 義	1	S114

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
乳井 英雄	2	前 期	選 択	◎		

授 業 概 要	①公教育の理念と教育財政 ②学校運営と教育財政 ③地域と学校の連携 ④教育制度改革⑤危機管理と学校安全
到 達 目 標	財政制度や教育財政の仕組みを理解できるようになる。また、学校安全や安全管理の基本的な考え方を理解できるようになる。
授 業 の 方 法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。
予習・復習等及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	公教育の理念(オリエンテーション含む)	9	学校の役割と地域社会
2	教育制度の基本	10	地域連携と学校
3	財政の意味と理念	11	家庭経済と教育財政の関わり
4	教育財政の仕組み	12	税制と教育制度
5	現代社会における教育制度の諸問題	13	教育制度の海外比較
6	教育制度改革とは	14	危機管理と安全教育
7	学校経営の仕組み	15	教育現場における安全
8	学校運営の評価と改善		

教科書・参考文献	「学校経営」小島弘道
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育内容研究Ⅰ（人間関係）	専門教育科 目	演 習	2	S310

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
乳井 英雄	2	後 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	①領域「人間関係」とは ②教育要領と領域「人間関係」 ③他者との関わりと発達④共同作業・ディスカッション
到 達 目 標	領域「人間関係」のねらいや内容が理解できる。また、協同性や他者との関係性からの発達を理解して実践できる。さらに、現代社会と人間関係の諸問題を探求できる。
授 業 の 方 法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。
予習・復習等及び必要時間(分)	指定文献を一読すること（30分）。講義内容を振り返り疑問点を考える（30分）。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	人間関係とは（オリエンテーション含む）	9	地域社会と幼少接続
2	幼稚園教育要領の領域「人間関係」を理解する	10	幼稚園生活における人間関係の実際
3	発達と集団教育の展開	11	現代社会と人間関係
4	他者と係わる力の発達Ⅰ	12	人間関係における課題の発見と整理
5	他者と係わる力の発達Ⅱ	13	領域「人間関係」の指導に向けてⅠ
6	集団遊びと個人遊びⅠ	14	領域「人間関係」の指導に向けてⅡ
7	集団遊びと個人遊びⅡ	15	全体ディスカッションとまとめ
8	集団行動と人間関係		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領 「保育内容人間関係」 榎沢良彦
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育内容研究Ⅳ(健康)	専門教育科 目	演 習	2	S313

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼	2	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域について理解を深め，幼児期の発育発達と運動の役割について学ぶ。また，それらを踏まえ具体的な場面を想定して指導案を作成し，保育を構想する視点を学ぶ。
到 達 目 標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域の視点から基本的知識を身につけ，幼児を取り巻く環境の変化がこころとからだに及ぼす影響について理解する。また，実際の場面を想定して保育を構想する視点を養うことを目的とする。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行う。また，プリントをもとに進め，講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに，授業後半では，指導案の作成・模擬保育を行う。その他，授業の内容に応じてグループワークを実施する。
予習・復習等及び必要時間(分)	配布資料を読み込み，授業内容を理解すること。(1時間程度) 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。(2時間程度)
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	遊びとしての運動
2	乳幼児期の健康課題	10	指導案作成①
3	乳幼児の身体の発達的特徴	11	指導案作成②
4	乳幼児期の生活習慣の形成	12	模擬保育①
5	幼児の安全教育と危機(リスクとハザード)	13	模擬保育②
6	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防	14	保育・幼児教育における評価・振り返り
7	乳幼児期の運動発達の特徴	15	小学校教育との接続
8	日常生活における運動		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内テスト(80%)(授業内テスト2回(40点×2)の受験を必須とする)，提出されたレポート等の課題評価(20%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育内容研究Ⅴ（表現）	専門教育科 目	演 習	2	S314

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
太田　望	2	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	「表現」の領域の観点で、こどもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるように、こどもをみる力を身に付ける。また、ドキュメンテーションの必要性や、用い方を学ぶ。
到 達 目 標	・遊びを記録してドキュメンテーションを作成することで、その必要性を伝えることができる。 ・今までの「表現」の領域の学びを基礎として、遊びを教材研究し、提案することができる。
授 業 の 方 法	実技を中心とした授業であり、遊びの中から、こどもの表現を考え、ドキュメンテーション作りやグループワークを行う（ディスカッション・協働学習・問題解決学習）。
予習・復習等及び必要時間（分）	日頃から様々な素材や表現について考え、保育・幼児教育、福祉と結びつくようにしておく（30分程度）。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	こどもの表現活動[紙コップで遊ぶ] （オリエンテーションを含む）	9	グループでのドキュメンテーション作り・ 個人でのドキュメンテーション作り[糸電話]
2	グループでのドキュメンテーション作り [紙コップで遊ぶ]	10	グループワーク①[領域「表現」での教材研究]
3	こどもの表現活動[新聞紙で遊ぶ]	11	グループワーク②[領域「表現」での教材研究]
4	グループでのドキュメンテーション作り [新聞紙で遊ぶ]	12	グループワークによる教材研究の成果発表①
5	こどもの表現活動[リトミック・音の鳴るもの]	13	グループワークによる教材研究の成果発表②
6	グループでのドキュメンテーション作り [リトミック・音の鳴るもの]	14	グループでのドキュメンテーション作り [教材研究での活動]
7	個人でのドキュメンテーション作り [リトミック・音の鳴るもの]	15	個人でのドキュメンテーション作り [教材研究での活動]、振り返り、まとめ
8	こどもの表現活動[糸電話]		

教科書・参考文献	『役立つ!活きる!保育ドキュメンテーションの作り方』（西東社）
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	オフィスアワーにて随時受け付ける。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	指導案（20%）、提出されたドキュメンテーション（20%）、レポート（60%）等を総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校における教育経験。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育内容指導Ⅰ(健康)	専門教育科目	演 習	2	S315

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田 隼	2	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方，環境設定について理解を深め，指導案の作成，模擬授業を行う。また，模擬保育の振り返りを情報機器および視聴覚教材を効果的に活用し，保育実践の評価方法についての視点を学ぶ。
到 達 目 標	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方，環境設定について理解を深める。また，具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について学び深めることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行う。また，プリントをもとに進め，講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに，授業を通して指導案の作成・模擬保育を行う。その他，授業の内容に応じてグループワークを実施する。
予習・復習等及び必要時間(分)	配布資料を読み込み，授業内容を理解すること。(1時間程度) 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。(2時間程度)
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	多様な動きの経験を促す援助
2	保育における「健康」とは	10	心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
3	基本的生活習慣の形成を支える援助	11	健康な心と体を育む保育の構想(計画立案Ⅱ)
4	健康管理と安全能力を育む援助	12	健康な心と体を育む保育の構想(教材研究Ⅱ)
5	健康な心と体を育む保育の構想(計画立案Ⅰ)	13	健康な心と体を育む保育の実践(模擬保育Ⅱ)
6	健康な心と体を育む保育の構想(教材研究Ⅰ)	14	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅱ
7	健康な心と体を育む保育の実践(模擬保育Ⅰ)	15	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校との連携
8	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅰ		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	模擬保育(60%)，指導案(20%)，提出されたレポート等の課題評価(20%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	専門教育科 目	演 習	2	S316

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春 ・ 村田 あきの	2	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	乳幼児の豊かな言語体験や表現活動に寄与できる保育者となるために、言葉を中心とした児童文化財に関する知識を深める。さらに、児童文化財をもちいた遊びの展開について自ら考え、表現力を豊かにし、技術を身につける。
到 達 目 標	1. 保育における子どもの人間関係を育むための保育内容と方法に関する知識と技術を習得する。 2. 児童文化財を保育の現場で実践するための技術を習得する。 3. 言葉を通して主体的に活動・表現ができる保育者になる。
授 業 の 方 法	授業冒頭で概説後、グループまたは個人でディスカッション・製作・練習等を行う。各回で課題やふり返りを課すため、ワークシートに記入し提出すること。
予習・復習等及び必要時間(分)	製作もしくは発表の準備や練習（30から60分）
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	子どもの人間関係を育む遊び	9	パクパク人形(3)人形劇の台本を準備する
2	子どもの人間関係を育む遊びの実際	10	パクパク人形(4)人形劇の練習をする
3	おはなし(1)来歴と子どもの育ち	11	パクパク人形(5)人形劇の発表
4	おはなし(2)発表を準備する	12	絵本を題材とした模擬保育(1)
5	おはなし(3)発表	13	絵本を題材とした模擬保育(2)
6	おはなし(4)発表	14	絵本を題材とした模擬保育(3)
7	パクパク人形(1)作り方・人形劇の基本	15	絵本を題材とした模擬保育(4)
8	パクパク人形(2)製作		

教科書・参考文献	【参考文献】 福音館書店「母の友」編集部編著(2022)『こどもに聞かせる一日一話』福音館書店 幸田眞希(2016)『手作り人形劇ハンドブック』萌文書林
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	各回で回収したワークシートには必要に応じてフィードバックを行う。グループでの活動や発表時には個別もしくは全体にコメントや指導を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ワークシート 30% 発表や製作 70%
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
教育実習事前事後指導	専門教育科 目	演 習	※	S407

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
乳井 英雄	2	前 期	選 択	◎		

授 業 概 要	①教育実習の目的 ②教育実習への心構え ③実習日誌について ④指導案について ⑤自己研究
到 達 目 標	教育実習の目的、内容、心構え等を理解できるようになる。また、実習日誌や指導案等の準備、作成が出来るようになる。
授 業 の 方 法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。
予習・復習等 及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	指導案の理解Ⅰ
2	教育実習の目的と内容Ⅰ	10	指導案の理解Ⅱ
3	教育実習の目的と内容Ⅱ	11	指導案の理解Ⅲ
4	教育実習の目的と内容Ⅲ	12	実習に向けての自己研究Ⅰ
5	心構えと準備Ⅰ	13	実習に向けての自己研究Ⅱ
6	心構えと準備Ⅱ	14	実習中指導とは
7	実習日誌の理解Ⅰ	15	実習全体のまとめと実習後指導について
8	実習日誌の理解Ⅱ		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領 教育実習ハンドブック
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※1年次、教育実習事前事後指導と合わせて1 単位となる。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
教育実習	専門教育科目	実 習	3	S408

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
実習担当者	2	集 中	選 択	◎		

授業概要	幼稚園及び認定こども園において、学内で学習した専門分野での理論や技術に基づき、教育実践を進め、幼児理解、指導計画の立案、及び環境構成・援助の実際についての学びを深める。 又、職務の実際に触れ教師(保育者)としての使命感や社会的責任意識を高めるとともに、まとめの学習に意欲をもち、進路選択及び決定に生かしていく。
到達目標	子どもたちとのふれあいを通して教師(保育者)としての喜びと誇りを体感し、理論の深化及び実践力の向上のための学習を継続して意欲的に行う。
授業の方法	幼稚園・幼保連携型認定こども園にて所定の時間実習を行う。 実習日誌等の提出は単位認定の必須条件。
予習・復習等及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録2 時間程度と準備に1 時間程度必要
履修条件	教育実習(本実習)は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習(本実習)を履修することはできない。 学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。

授業計画

まず、1年次に本学付属幼稚園にて基本実習(こども園・幼稚園体験活動)を行います(1単位)
次に2年次に市内または地方の幼稚園・幼保連携型認定こども園にて本実習を行います(3単位)
なお、基本実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。

教科書・参考文献	なし
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	園からの評価表と実習日誌, レポートを用い, 事後指導のための面談を行います。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は, 実習園からの評価, 実習に対する姿勢, 実習日誌, レポート等により総合的に評価して, 単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育・教職実践演習（幼稚園）	専門教育科 目	演 習	2	S410

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	2	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	これまでの学びや教育実習を振り返り成果や反省を明らかにし、様々な保育の問題に対してグループワーク等を通して、自分の考えを再構成していく。また、自らの課題を明らかにし、方向づけを行う。
到 達 目 標	これまでの学修および教育実習を通しての学び等を振り返り、自分の良さや課題を明らかにし、就業に向けて、良さを伸ばし課題を改善する。
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用いる。演習やグループ協議・ロールプレイ等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等及び必要時間（分）	授業の振り返りに30分程度・次回の予習に30分程度。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス 自己課題を持つことの重要性	9	保護者との関係構築
2	幼稚園教育実習を振り返る① 自己シート作成	10	地域の子育て支援
3	幼稚園教育実習を振り返る② グループ討議・発表	11	健康・安全な園生活をつくる（危機管理）
4	幼稚園教育実習の振り返る③ （集約）	12	保育記録を書く力をつける
5	幼稚園教育実習の振り返る④ 自己評価	13	研修を通して学ぶ
6	保育者に求められる資質能力	14	現代的教育課題への対応
7	人間関係の育ちとクラス経営	15	全体を通してのまとめ
8	特別な支援を必要とする子どもとその対応		

教科書・参考文献	教科書：保育・教職実践演習 学びの軌跡の集大成を目指して（光生館） 幼稚園教育要領の解説（最新版）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
課 題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
ピアノ表現法Ⅱ	専門教育科目	演 習	1	S319

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生	2	通 年	選 択			

授 業 概 要	ピアノ表現法Ⅰに続き、ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。
到 達 目 標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。
授 業 の 方 法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする(1時間程度)必要がある。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・シラバス説明	16	6度・3度の重音№77・№78
2	ハ長調の音階№55・№56	17	3連符№79・№80
3	高い音の練習(その1)№57・低い音の練習№58	18	ヘ長調よりハ長調への転調№81
4	ヘ長調のの音階№59・№60	19	3度の重音と8度の跳躍№81
5	8va の練習・ト長調の音階№62・№63	20	弱起の曲№83・№84
6	高い音の練習(その2)№64・№65	21	二長調の主要三和音№85・二短調主要三和音
7	高い音の練習(その2)№66・№67	22	装飾音№87・№88
8	臨時記号№68・半音階№69	23	装飾音№89・№90
9	16分音符のリズム№70・№71・№72	24	複付点音符№91・№92
10	イ短調の主要三和音№73・№74	25	複付点音符№93・№94
11	イ短調の主要三和音№75・№76	26	補充教材 March
12	課題の練習①	27	課題の練習①
13	課題の練習②	28	課題の練習②
14	課題の練習③	29	課題の練習③
15	課題の練習・小テスト	30	課題の練習・小テスト

教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	個人レッスンとなるため、個々の修得度合いに合わせて課題調整等々のフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	小テスト2回各50点とし、60点以上を合格とする
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
こどもの造形と遊び	コース選択 科 目	演 習	1	S501

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
太田　望	2	前 期	選 択			

授 業 概 要	遊びを通しての保育・教育の視点から、造形遊びの教育的な意義について教材研究の演習に取り組み、こども理解に根ざした造形活動についての理解を専門的に深める。
到 達 目 標	・教材研究をこどもの発達や個性的な表現の違いの視点で理解することができる。 ・教材研究を通して学修したことを元に模擬保育を計画、実践することができる。
授 業 の 方 法	・前半は、多様な材料や用具を中心とした教材研究を通して、こどもにとっての教材としての意味や価値について考える(問題解決学習)。 ・後半はグループワークによる教材研究と模擬保育に取り組む(ディスカッション)。
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業についての予習復習の学修が30分程度必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーションとガイダンス・教材研究① (教材研究とは何か)	9	模擬保育の計画Ⅱ(活動内容の計画と決定)
2	教材研究②(こどもの発達での表現の違い)	10	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究1)
3	教材研究③(こどもの個性的な表現の違い)	11	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究2)
4	模擬保育の計画Ⅰ(活動内容の計画と決定)	12	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究3)
5	模擬保育の計画Ⅰ(教材研究1)	13	模擬保育の計画Ⅱ(対象年齢と環境構成、支援)
6	模擬保育の計画Ⅰ(教材研究2)	14	模擬保育の実践と振り返りⅡ①
7	模擬保育の計画Ⅰ(対象年齢と環境構成、支援)	15	模擬保育の実践と振り返りⅡ②、まとめ
8	模擬保育の実践と振り返りⅠ		

教科書・参考文献	『美育文化ポケット』(公益社団法人　美育文化協会)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	オフィスアワーにて随時受け付ける。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	発表(20%)、グループワークでの作成物(20%)、提出されたレポート(60%)等を総合的に評価する
実務経験と担当科目 内容との関連	特別支援学校にて美術科を担当していた。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
こどもの音楽と遊び	コース選択 科 目	演 習	1	S502

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
江端 深雪	2	前 期	選 択			

授 業 概 要	基礎的な音楽力を基に、多岐にわたる音楽体験を通して保育の内容・方法を深化させる。 子どもの感性を育み、創造力や表現力を豊かに育てることができる保育の実践を目指し、音楽や遊びを身近に感じられる学習の場を設定する。
到 達 目 標	保育者自身が「音楽の楽しさ」を体感することで表現の世界を拡げ、子どもと共に音楽を楽しみ合える実践的な音楽能力を養う。
授 業 の 方 法	音楽やリズムに合わせて楽しむ遊び、音に触れて楽しむ遊びに加え、様々な楽器や手法を使ってバリエーション豊かな音楽活動を展開する。
予習・復習等 及び必要時間(分)	ピアノレパートリーの充実やアンサンブルにおける担当パートの個人練習のため、30 分～1 時間程度の予習・復習が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	遊びのためのレパートリー曲
2	ML アンサンブル	10	ボディパーカッション
3	表現遊び (1)	11	ボイスパーカッション
4	表現遊び (2)	12	器楽アンサンブル (1)
5	ミュージックベル	13	器楽アンサンブル (2)
6	発表と振り返り	14	器楽アンサンブル (3)
7	トーンチャイム	15	振り返りと小テスト
8	発表と振り返り		

教科書・参考文献	必要資料を配布。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	楽器演奏については、各個人へ習熟度に応じたアドバイスを行い、今後の学習に反映させる。アンサンブル等についても、個々に助言をしながら音楽全体の調和や練習過程、演奏評価を含めフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題・小テスト(60%) グループにおける活動状況および楽器演奏(30%) アンサンブル完成度(10%) 以上を総合的に判断し、評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
こどもの健康と遊び	コース選択科 目	演 習	1	S503

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
池田　隼	2	後 期	選 択			

授 業 概 要	健康教育の重要性や必要性の理解を深め，乳幼児が自発的に活動することのできる環境構成を構成する力を身につけるとともに，運動遊びの安全な援助方法や指導方法を学ぶ。
到 達 目 標	運動遊びの計画・実践・評価を行い，実践の評価視点を身につけるとともに，子どもたちが夢中になって遊ぶ環境の設定について実践を通して学ぶことを目的とする。
授 業 の 方 法	運動遊びの計画を立て模擬保育を行う。また，他者の模擬保育を園児役として参加し，模擬保育の評価を行う。さらに，授業内にて質疑応答などアクティブ・ワーニング形式を導入した授業を実施する。
予習・復習等及び必要時間(分)	模擬保育の指導案作成の提出，模擬保育の準備等を行うこと。(2時間程度) 実践の反省や自己評価等を踏まえたレポートを提出する。(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	模擬保育(実践・反省)6
2	指導案作成について①	10	模擬保育(実践・反省)7
3	指導案作成について②	11	模擬保育(実践・反省)8
4	模擬保育(実践・反省)1	12	模擬保育(実践・反省)9
5	模擬保育(実践・反省)2	13	模擬保育(実践・反省)10
6	模擬保育(実践・反省)3	14	模擬保育(実践・反省)11
7	模擬保育(実践・反省)4	15	まとめ・振り返り
8	模擬保育(実践・反省)5		

教科書・参考文献	資料を配布
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	模擬保育について，個別にフィードバックを行い，実践の振り返りを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	模擬保育(60%)，指導案(30%)，毎時提出されたレポート等の課題評価(10%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
地域福祉論	コース選択 科 目	講 義	2	S604

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
工藤 絵里	2	前 期	選 択			◎

授 業 概 要	地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。
到 達 目 標	福祉的なニーズを抱える人たちに対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解する。
授 業 の 方 法	講義形式で行い、グループワークなどアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた演習を行う。
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回の講義で紹介される資料等を使用して、必ず予習・復習をすること。(各30分程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	差別と偏見を見つめる
2	地域福祉とは何か	10	街に暮らす人々⑥ 障がい者と地域社会1
3	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	11	街に暮らす人々⑦ 障がい者と地域社会2
4	街に暮らす人々① 認知症と地域社会	12	街に暮らす人々⑧ LGBTQと地域社会
5	街に暮らす人々② 高齢者と地域社会	13	地域福祉の推進主体
6	街に暮らす人々③ 子ども・家庭と地域社会1	14	地域福祉の推進方法(グループワーク)
7	街に暮らす人々④ 子ども・家庭と地域社会2	15	地域福祉の今後と課題
8	街に暮らす人々⑤ 生活困窮者と地域社会		

教科書・参考文献	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	筆記試験(70%)、レポート課題(30%)によって総合的に評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	小学校教員・相談員・支援員の実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
ボランティア活動論	コース選択 科 目	講 義	2	S602

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	2	後 期	選 択			

授 業 概 要	ボランティアの歴史や実施体制、現代におけるボランティアの課題と今後について学習し、多角的な視点から幅広くボランティアを捉え、各々の新たな考え方に気づく。
到 達 目 標	地域活動に貢献できる奉仕の心を育み、地域に貢献できる力を身につけることをねらいとします。
授 業 の 方 法	スライド、映像、プリントを用いた形式で授業を展開し、授業内での質疑応答や現代社会のボランティア課題についてグループディスカッションを行うことで、アクティブ・ラーニング形式の授業を実践する。また、ボランティアで役立てられる演習を実施する。
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します(20分程度)。 授業において配布した資料を再確認する(15分程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス・ボランティアとは	9	ボランティアに役立てる実践演習Ⅰ
2	ボランティアの意味・始まり	10	ボランティアに役立てる実践演習Ⅱ
3	社会とボランティアⅠ	11	ボランティアに役立てる実践演習Ⅲ
4	社会とボランティアⅡ	12	ボランティアに役立てる実践演習Ⅳ
5	ボランティアの活動形態	13	ボランティアに役立てる実践演習Ⅴ
6	ボランティアにおける課題(グループワーク)	14	ボランティアのこれから
7	ボランティアとNPO	15	講義総括
8	有償ボランティア		

教科書・参考文献	講義内で随時紹介
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	講義内において課題の解説をした上で、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	提出課題30%・レポート70%による総合評価を原則とし、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
福祉住環境コーディネーターⅠ	コース選択 科 目	講 義	2	S603

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	2	前 期	選 択			

授 業 概 要	少子高齢社会における住環境整備の重要性、必要性を理解し、支援者としての専門的な知識を身に付ける。また、各専門職やご家族の調整をし、安心・安全・快適な住まい福祉社会の観点から住環境に対する理解を深める。
到 達 目 標	多角的な支援のできる保育者として、高齢者、障がい者、子どもが安心して生活することのできる住環境について理解することをねらいとする。 福祉住環境コーディネーター3級取得を目指す。
授 業 の 方 法	テキスト、スライド、映像を用いた形式で授業を行い、授業内での質疑応答、安心できる住環境についてグループディスカッションを実践したアクティブ・ラーニング形式を導入する。住環境から発見できる課題について考え、その課題解決に向けたグループワークを実施する。
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書を読んで事前学習を行うこと(30分程度)。 授業内で実施した練習問題から、出題の要点と傾向の確認をすること(45分程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス・福祉住環境コーディネーターとは	9	生活福祉用具
2	現在の高齢社会と福祉	10	住まい整備のための基本技術
3	福祉住環境の重要性・必要性	11	福祉住環境整備(屋内外の移動)
4	介護保険制度についてⅠ	12	福祉住環境整備(排泄・整容・入浴)
5	介護保険制度についてⅡ	13	福祉住環境整備(清掃・調理・就寝)
6	高齢者の健康と自立Ⅰ	14	安心できる住生活(グループディスカッション)
7	高齢者の健康と自立Ⅱ	15	安心できるまちづくり
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン		

教科書・参考文献	教科書:改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業時間に練習問題にトライし、解答と解説を実施することで各々の理解度を高める。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	在宅サービスにおける実務経験から、より具体的な授業展開を図る。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
教育カウンセリング心理学	コース選択科 目	演 習	1	S701

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	2	後 期	選 択			

授 業 概 要	保育・教育場面におけるコミュニケーションのあり方や援助の方法，技術，個と集団を捉える意義と方法等について教科書や体験を通して学びます。
到 達 目 標	教育カウンセリング心理学に関する基本的な知識と技法を習得することを目的とします。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行い，グループワークやロールプレイ，ケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習も行います。授業内で行う試験を受験することとレポートを提出することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(1時間程度) 授業後は，講義資料や関連する書籍を読むなどして，復習してください。(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	認知行動療法の基本的な考え方と実際①
2	個別面接の技法モデル	10	認知行動療法の基本的な考え方と実際②
3	個別面接の諸形態と技法	11	アドラー心理学の基本的な考え方
4	ソーシャルスキル教育の実践演習①	12	事例研究① 事例報告の書き方
5	ソーシャルスキル教育の実践演習②	13	事例研究② ケースカンファレンス
6	ソーシャルスキル教育の実践演習③	14	学級集団のアセスメントとコンサルテーション
7	ソーシャルスキル教育の実践演習④	15	講義総括
8	ストレスマネジメント教育		

教科書・参考文献	教科書:NPO日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。また，具体的な学習方法について提示します。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，授業内試験(70%)，レポート(20%)，授業後に提出するリアクションペーパー(10%)によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
セラピー概論	コース選択科目	講 義	2	S702

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	2	前 期	選 択			

授 業 概 要	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び，それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とします。
到 達 目 標	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論や技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(1時間程度) 教科書の内容が教育カウンセラー補の試験範囲となりますので，授業後は十分に復習してください。(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	解決志向ブリーフ・セラピー
2	フロイトの精神分析理論	10	家族療法の基礎
3	ロジャーズの自己理論①	11	表現療法① 絵画療法
4	ロジャーズの自己理論②	12	表現療法② コラージュ療法の体験
5	パールズのゲシュタルト療法	13	表現療法③ 箱庭療法の体験
6	エリスの論理療法	14	自律訓練法の基礎と体験
7	バーンの交流分析理論	15	講義総括
8	行動療法の基礎と実際		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化 参考文献:長尾博著「心理・精神療法ワークブック」誠信書房
課 題 (レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。また，具体的な学習方法について提示します。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
保育心理演習	コース選択科目	講 義	2	S703

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	2	前 期	選 択			

授 業 概 要	保育・幼児教育の現場で出会う心理的な問題を取り上げ，それらの理解の仕方と対応方法について検討します。
到 達 目 標	具体的な事例を通して，保育・教育実践に生かせる専門的知識と技術を習得するとともに，複眼的視点をもって他者と協力して問題解決に取り組む態度を身につけることを目的とします。
授 業 の 方 法	講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習も行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間(分)	授業後は，講義資料や関連する書籍を読むなどして，復習してください。(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	生活習慣について
2	乳幼児期における心理的特性とその対応	10	事例検討(生活習慣について)
3	児童期における心理的特性とその対応	11	言葉の遅れについて
4	子どもの心の問題と保育・教育相談①	12	事例検討(言葉の遅れについて)
5	子どもの心の問題と保育・教育相談②	13	ソーシャルスキルについて
6	アセスメントの基礎	14	事例検討(ソーシャルスキルについて)
7	事例検討の方法①	15	講義総括
8	事例検討の方法②		

教科書・参考文献	教科書:なし，参考文献: 藤原義博監修「保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド」学苑社
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにします。また，具体的な学習方法について提示します。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定します。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
幼児総合研究	自由選択科目	演 習	2	F101

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
山崎 理恵子	2	集 中	選 択			

授 業 概 要	運動遊びの実践を通し、運動の楽しさやダンスの特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。
到 達 目 標	運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とし、舞台発表を体験する。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し，運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学習する。
予習・復習等及び必要時間(分)	創作ダンスの振り作成案などの予習が必要である。(2 時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	9	表現遊び(ダンス)⑧
2	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	10	表現遊び(ダンス)⑨
3	表現遊び(ダンス)②	11	表現遊び(ダンス)⑩
4	表現遊び(ダンス)③	12	表現遊び(ダンス)⑪
5	表現遊び(ダンス)④	13	表現遊び(ダンス)⑫
6	表現遊び(ダンス)⑤	14	表現遊び(ダンス)⑬
7	表現遊び(ダンス)⑥	15	発表
8	表現遊び(ダンス)⑦		

教科書・参考文献	なし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとにフィードバックを行う。要点を再確認した後、遊びやねらいに応じた指導・援助方法について理解を深める。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	実技、その他を総合的に評価し、60 点以上で合格とし、1年前期の評価と合わせて総合評価となる。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
国際保育理解	自由選択科目	演 習	1	F102

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科担当教	1･2	集 中	選 択			

授 業 概 要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園･保育園訪問･見学･交流を行う。
到 達 目 標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。
授 業 の 方 法	韓国研修旅行の事前研修(講義)と韓国研修旅行により行う。
予習･復習等及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1 時間ほどの事前学習が必要。
履 修 条 件	学年･学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大･大学の学生の参加も可能。

授 業 計 画

1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行
5	事前研修 海外旅行の準備･注意点	13	研修旅行
6	研修旅行	14	研修旅行
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ
8	研修旅行		

教科書･参考文献	なし
課 題 (レポート･テストを含む)に対するフィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定･学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定･学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、レポート30%、による総合評価。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	ナンバリング
ウインタースポーツ	自由選択 科 目	演 習	1	F103

担当教員氏名	年 次	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	2	集 中	選 択			

授 業 概 要	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。
到 達 目 標	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。
授 業 の 方 法	後期講義終了後、集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録に1時間、用具の準備・整備・管理等準備と予習に30分及び健康管理
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	ごくゆるい斜面での練習
2	ウィンタースポーツの特性と学習計画	10	長い距離の滑走
3	スキーの歴史、スノーボードの歴史	11	様々なリズムでの滑走
4	ウィンタースポーツと安全	12	大まわり、中まわり、小まわり
5	上達するための練習過程	13	技能に合ったスピード、斜面
6	用具・用品についての基礎知識	14	ターンの質の向上
7	用具・用品の取り扱い方	15	斜度、雪質などの状況に対応した滑り
8	基本姿勢と基本動作の確認		

教科書・参考文献	なし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	最終日に総括として、担当教員よりまとめがあります。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内での評価100%(競技に取り組む姿勢や上達度)
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

オフィスアワーについて（2024年度）

オフィスアワーとは

　オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。
なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。
また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間

教員氏名	曜日	時間帯
藤村　敦	火曜日	16:25～17:25
乳井英雄	月曜日	16:25～17:25
渡谷能孝	月曜日	16:25～17:25
阿部千春	木曜日	16:25～17:25
伊藤　聡	月曜日	16:25～17:25
渋田昌士	月曜日	16:25～17:25
伊藤好一	金曜日	16:25～17:25
池田　隼	月曜日	16:25～17:25
太田　望	月曜日	16:25～17:25
今在景子	木曜日	16:25～17:25
齊藤大晶	水曜日	16:25～17:25
土谷育代	水曜日	16:25～17:25
村田あきの	金曜日	16:25～17:25
工藤絵里	月曜日	16:25～17:25